



Arcserve Unified Data Protection

7.0 のご紹介

2020年9月

Arcserve Japan



アジェンダ

1. Arcserve UDP の概要とフォーカスエリア
2. 様々なクラウド利用のニーズへの対応
3. ライセンス



1. Arcserve UDP の概要とフォーカスエリア



Arcserve Unified Data Protection (UDP)

イメージバックアップをベースにArcserveシリーズ
を統合したバックアップソリューション

Arcserve UDP

統合バックアップソリューション

Arcserve Backup

データ保護の大黒柱
頼れるバックアップ

Arcserve Replication/HA

レプリケーションの
デファクトスタンダード



簡単イメージバックアップ[®] Arcserve UDP

イメージバックアップとは

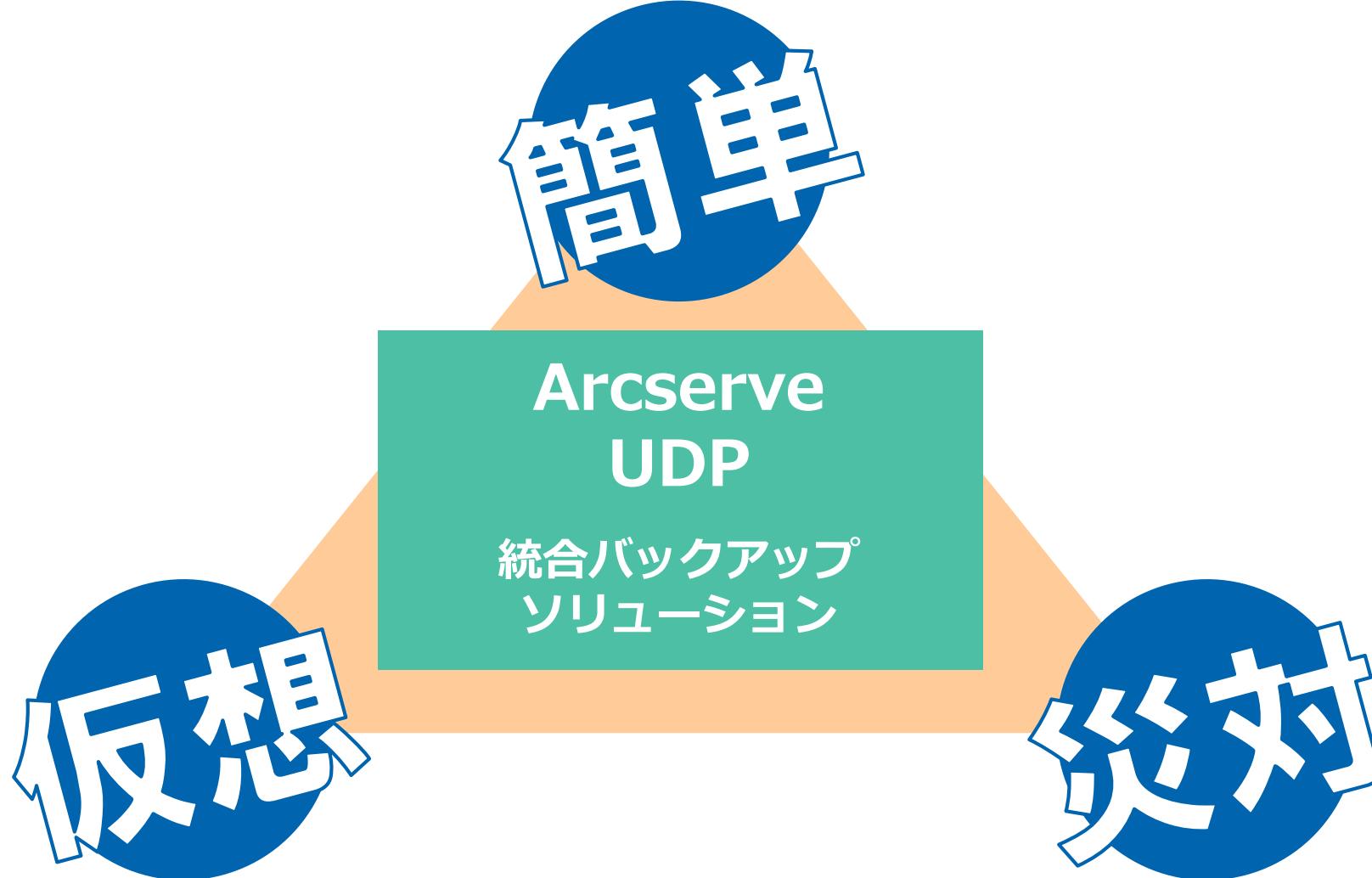
イメージバックアップとはファイル単位ではなく、ハードディスク全体を丸ごとバックアップし、ファイルに保存するデータ保護手段。OSを含め一気にリカバリできるのでシステム全体を簡単に復旧できます



Arcserve UDPは異なる機種への復旧やP2Vも標準サポート！



Arcserve UDP のフォーカス エリア





Arcserve UDP のフォーカス エリア



簡単！でも 柔軟に バックアップ

簡単なだけでなく、小規模・大規模、物理・仮想・クラウド、Windows・Linuxを問わず、柔軟なバックアップやリストアを実現



仮想化統合基盤に 関わる要件をまとめて対応

大規模仮想化統合基盤や、仮想基盤に統合できない物理サーバの保護、テープへのバックアップなどもまとめて Arcserve UDP で解決！



災害対策を適切なコストで実現

ストレージやネットワークを効率的に利用し、全体コストを抑えてシステムの災害対策を実現



簡単！でも 柔軟に バックアップ

運用を簡単にし、管理者の負担を軽くする機能を **多数** 実装しました

継続的な増分バックアップ

初回のフル バックアップ以降は
増分バックアップだけで運用



ベアメタル復旧

システム全体を復旧。異なる機種への復旧
やP2Vも標準サポート！



アプリケーションの 簡単バックアップ

Oracle、SQL Server、Exchange、
SharePoint を OS とまとめてオンライン
バックアップ/復旧できるため、運用が簡単！



ドラッグ&ドロップによる 簡単ファイルリストア

Windows エクスプローラまたは、Linux
ファイルブラウザ^(※)を使い、ファイル単位
でリストア





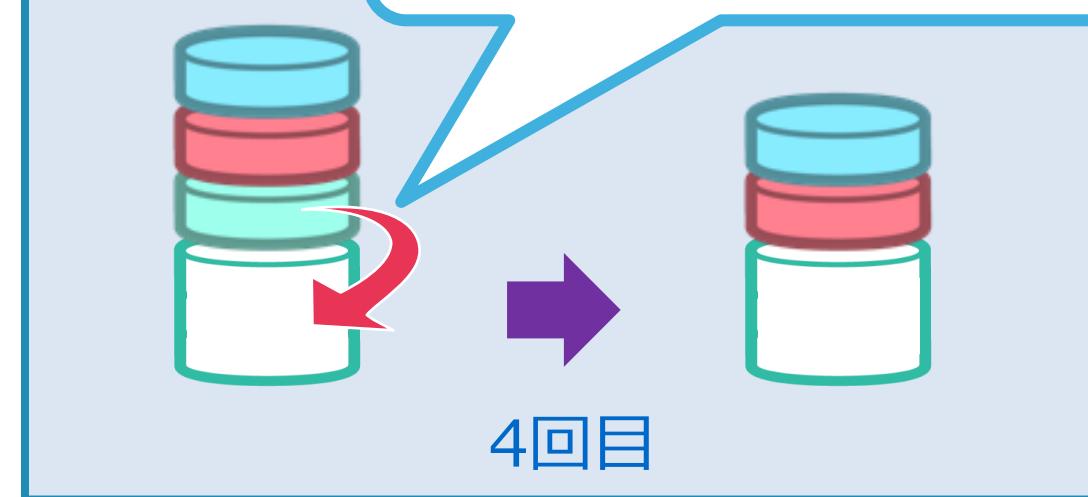
継続的な増分バックアップの効果

2回目以降フルバックアップの取り直しが不要なため、
バックアップ時間短縮とディスク使用量の節約が可能！！

バックアップデータを3世代保存する場合



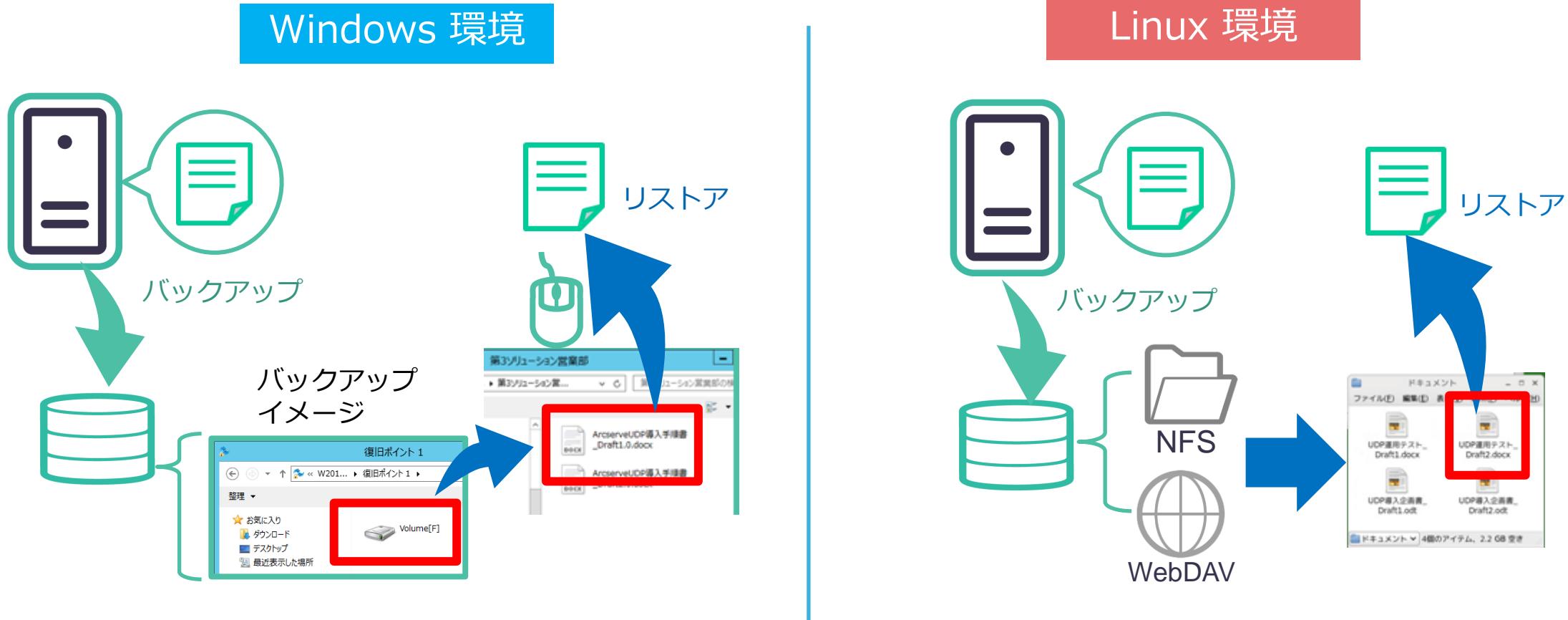
指定した保存数を超えると最も古い
増分データを合成（マージ）



※初期設定では7世代を保存(最大1440世代まで設定可)



ドラッグ & ドロップによる簡単ファイルリストア

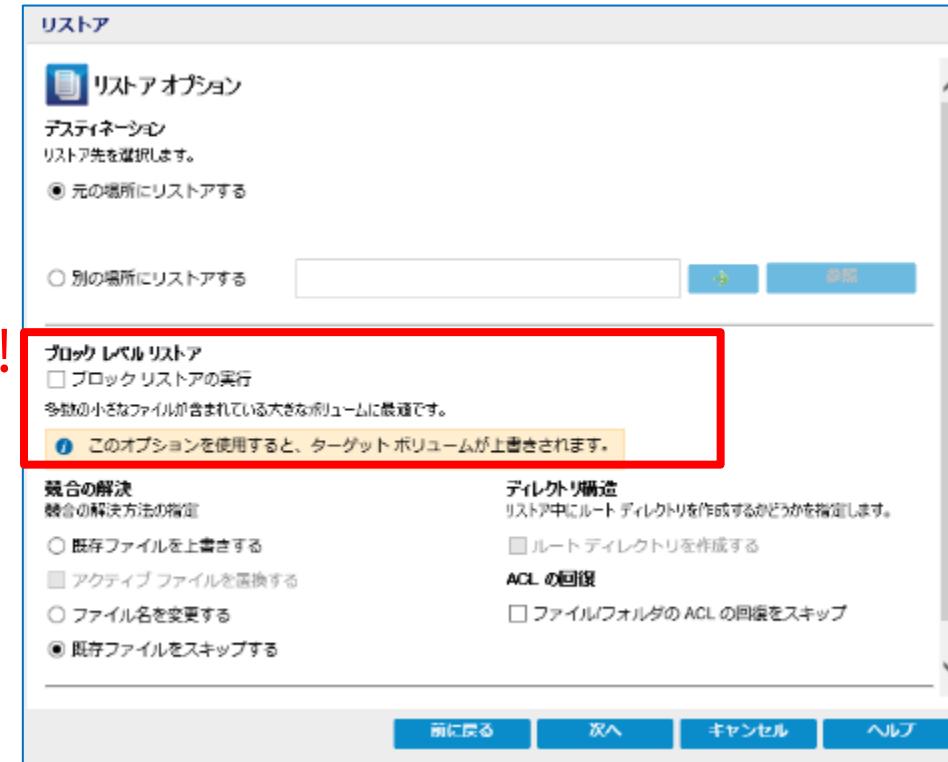


Windows も Linux も、簡単操作によるファイルリストアを実現

ボリューム単位リストアの高速化

Update1
拡張機能

Windows のリストアオプションで、ブロック レベル リストアの選択が可能

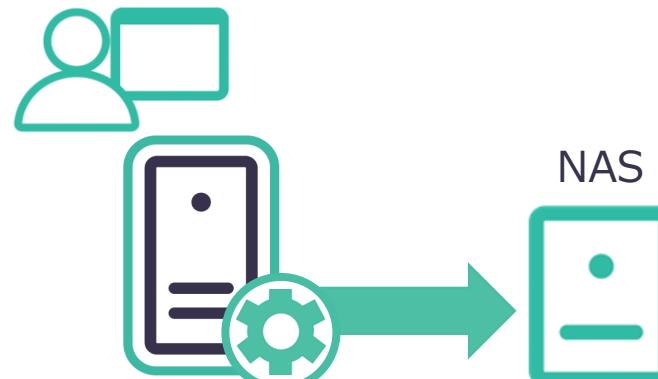


ブロックリストアでボリュームの高速リストアを実現



複数サーバ環境でも簡単なバックアップ運用を実現

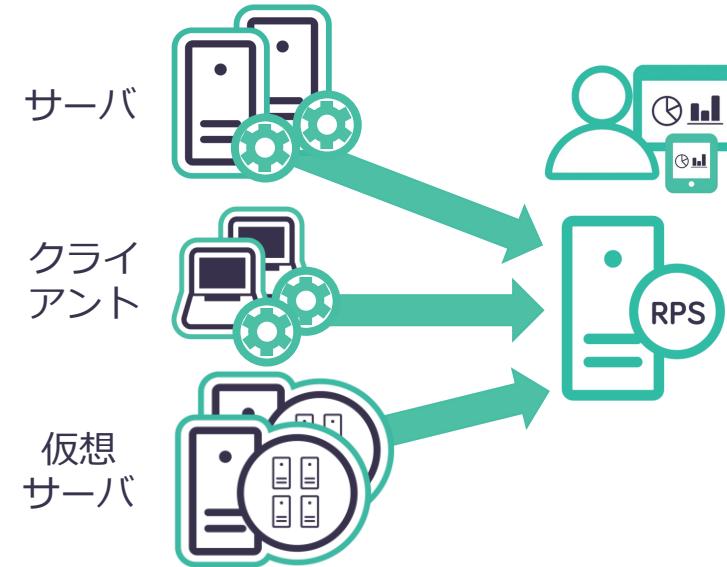
単体サーバのバックアップ



エージェント

エージェントだけでバックアップ運用

複数サーバのバックアップ



複数の対象を一元管理で、まとめて
バックアップ運用

システム構成の変更に合わせて**拡張可能！！**



その他の機能

リソース構成ウィザードによる初期設定の簡略化

バックアップ対象の登録やバックアップ先など必要な設定をウィザード形式で順に設定するだけで、初心者でも簡単に設定可能！

柔軟なバックアップ設定

- 指定した曜日や日次/週次/月次のバックアップスケジュールが設定可能
- 週次や月次、曜日指定のスケジュールを組み合わせた柔軟なスケジュール設定が可能

Active Directory のオブジェクトレベルリストア

- 誤って消してしまったActive Directoryのユーザ アカウントやコンピュータなどのオブジェクトを簡単にリストア可能
- ドメインサーバを止める必要がないため、復旧作業の業務への影響を最小化

共有フォルダ (CIFS/NFS) のバックアップ

- エージェントが導入できない NAS やストレージ上のデータのバックアップを実現
- CIFS/NFS経由でファイル単位の継続増分 + 重複排除バックアップが可能



Arcserve UDP のフォーカス エリア





仮想化統合基盤に関する要件をまとめて対応

仮想環境に統合するシステムに求められる多くの機能を盛り込みました

物理・仮想マシンの統合管理

物理、仮想マシンのバックアップを同じ画面でまとめてイメージバックアップ！



イメージバックアップのテープ保管

UDP コンソールを使い、Arcserve Backup と連携したテープバックアップを実現



エージェントレス バックアップ

仮想マシンにエージェントを入れずに丸ごとバックアップ & ファイル単位のリストアを実現



コマンドラインインターフェイス

運用管理ツールとの連携によって、バックアップ運用を自動化





統合管理を実現する Arcserve UDP のコンポーネント

Arcserve Unified Data Protection

エージェント

物理・仮想マシンの
バックアップを実行



コンソール (統合管理サーバ)

スケジュール管理
および操作画面を提供



復旧ポイント サーバ

バックアップデータの
格納庫を提供



環境に合わせて構成変更が可能



コンソール

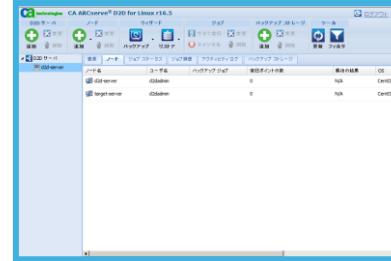
こんな時に
便利！

- Windows / Linuxをまとめてバックアップしたい
- 物理や仮想環境、クラウドのバックアップをまとめて管理したい

物理サーバ (Windows)



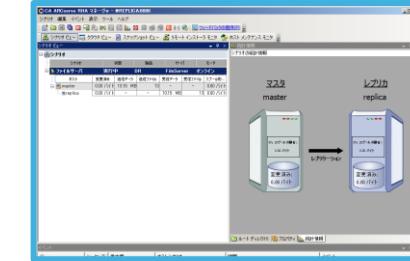
物理サーバ (Linux)



仮想マシン (エージェントレス)



Arcserve RHA



arcserve® unified data protection

ダッシュボード リソース ジョブ レポート ログ 設定 | ハイアベラビリティ

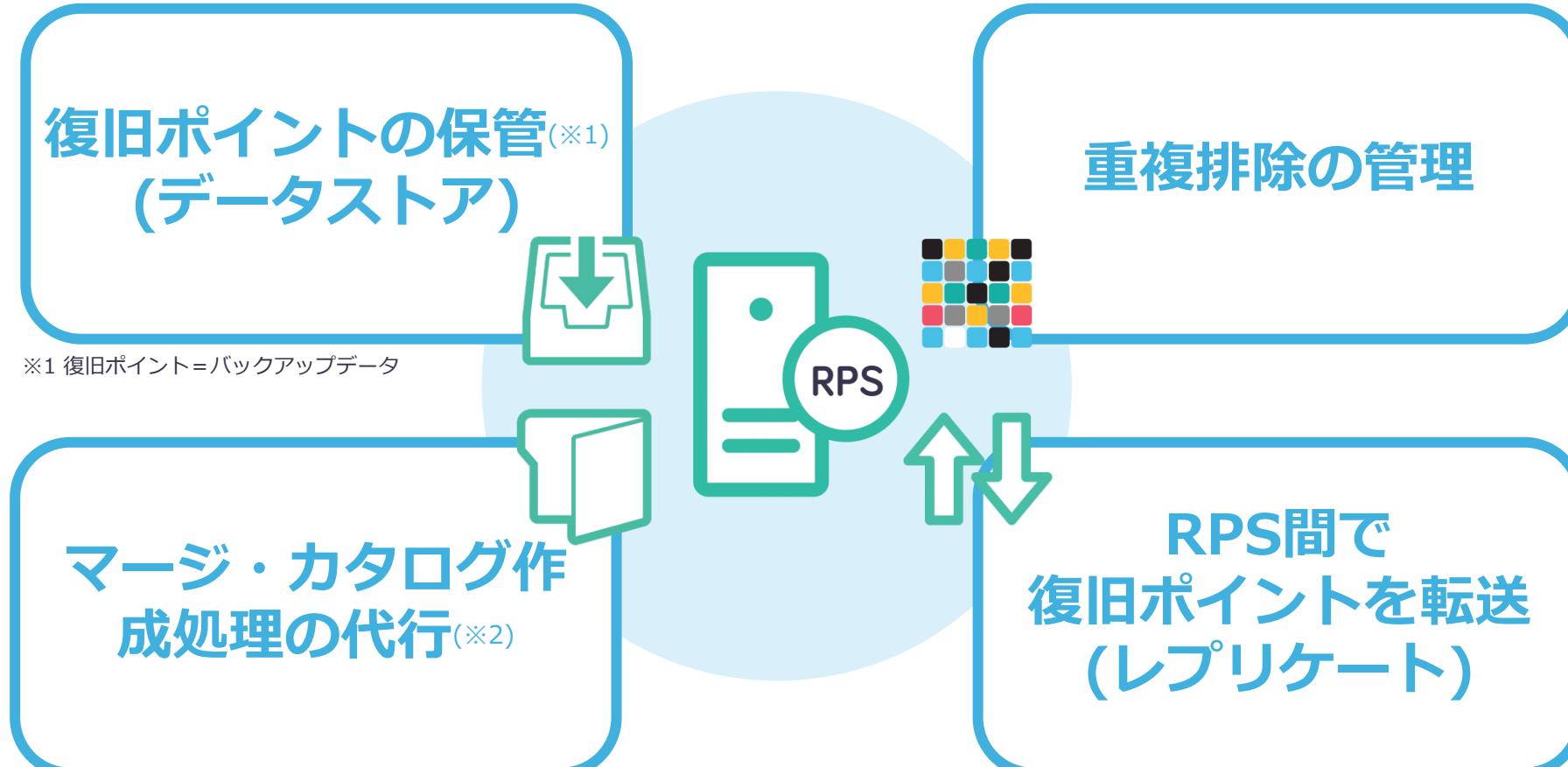
| ノード: すべてのノード | | | | | |
|-----------------------|-------|-----------------------|----------------------|------------|------------------------|
| ノード | アクション | ノード名 | プラン | ハイバーバイザ | 前回のバックアップ結果 |
| すべてのノード | | arcserve | 物理サーバのバックアップ | | 完了 2016/03/30 22:00:09 |
| プランのないノード | | rps-srv | | | 失敗 2016/03/30 22:00:09 |
| vCenter/ESX グループ | | target-server | Linux 物理サーバのプラン | | |
| Hyper-V グループ | | target-server.arc2.oc | Linux VM プラン | esx55 | 完了 2016/03/30 22:00:09 |
| プラン グループ | | w2k12r2-hv | | | |
| VM バックアップ プロキシ グループ | | w2k12r2-vm2 | Hyper-V VMのバックアッププラン | w2k12r2-hv | |
| Linux バックアップ サーバ グループ | | win2003r2 | VMware VMのバックアッププラン | esx55 | |
| デティネーション | | | | | |
| 復旧ポイントサーバ | | | | | |
| Arcserve Backup サーバ | | | | | |
| 共有フォルダ | | | | | |
| クラウドアカウント | | | | | |



インターネットブラウザを使って
どこからでも簡単にアクセス可能



復旧ポイントサーバ (Recovery Point Server : RPS)



複数サーバのバックアップ運用を効率化



仮想環境のエージェントレス バックアップ[®]

VMware vSphere、Microsoft Hyper-V、Nutanix AHV ^{※1} の
仮想マシンを エージェントレス でバックアップ

Windows VM Linux VM



VMware vSphere
Microsoft Hyper-V
Nutanix AHV



バックアップ



リストア



Arcserve UDPを使うメリット

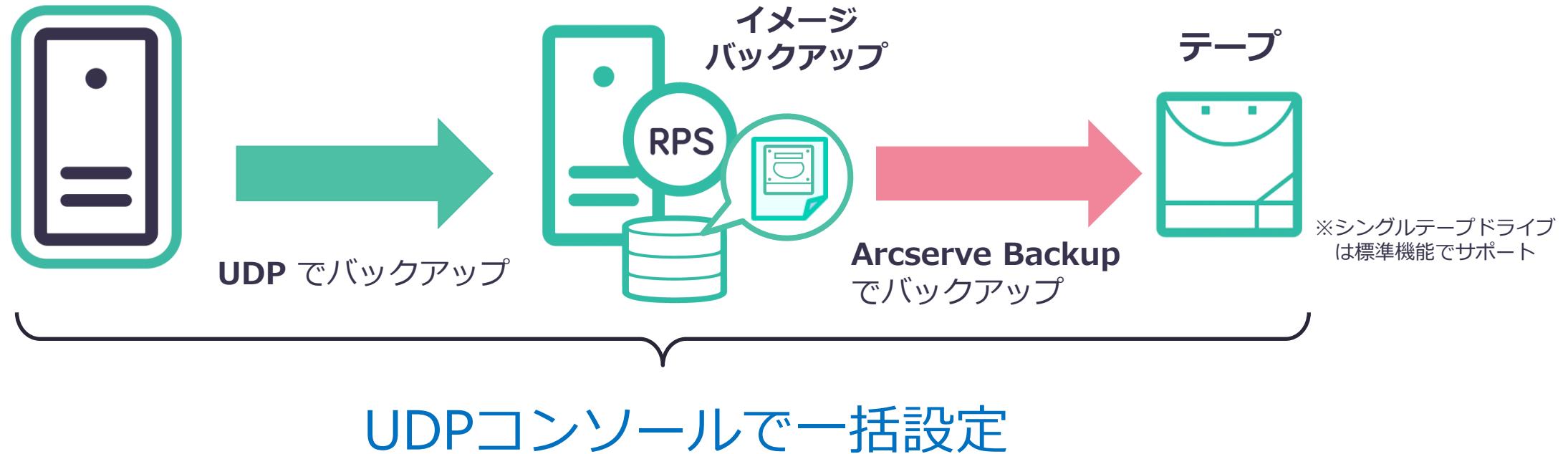
- ✓ 繼続増分バックアップ運用
- ✓ Windows / Linux の仮想マシン単位・ファイル単位での復旧
- ✓ 仮想マシン上のアプリケーションをオンラインバックアップ(※2)



イメージバックアップのテープ保管

ここが
ポイント!

- UDPのバックアップデータをArcserve Backupでテープ保管
- バックアップデータの長期保管や監査要件に対応



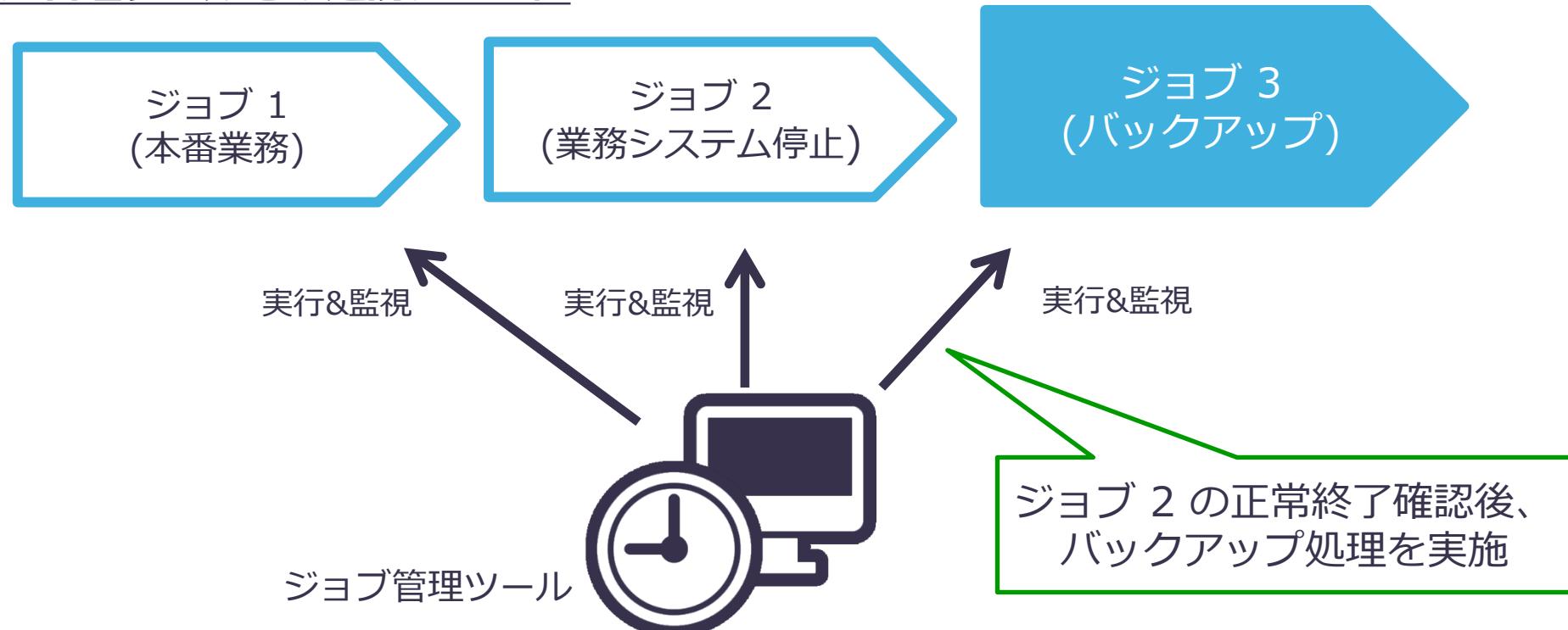


コマンドラインインターフェースによる柔軟なバックアップ運用

こんな時に
便利！

- バックアップ/リストアをスケジュール以外で自動実行したい場合
- ジョブ管理ツールからバックアップ処理を実行したい場合

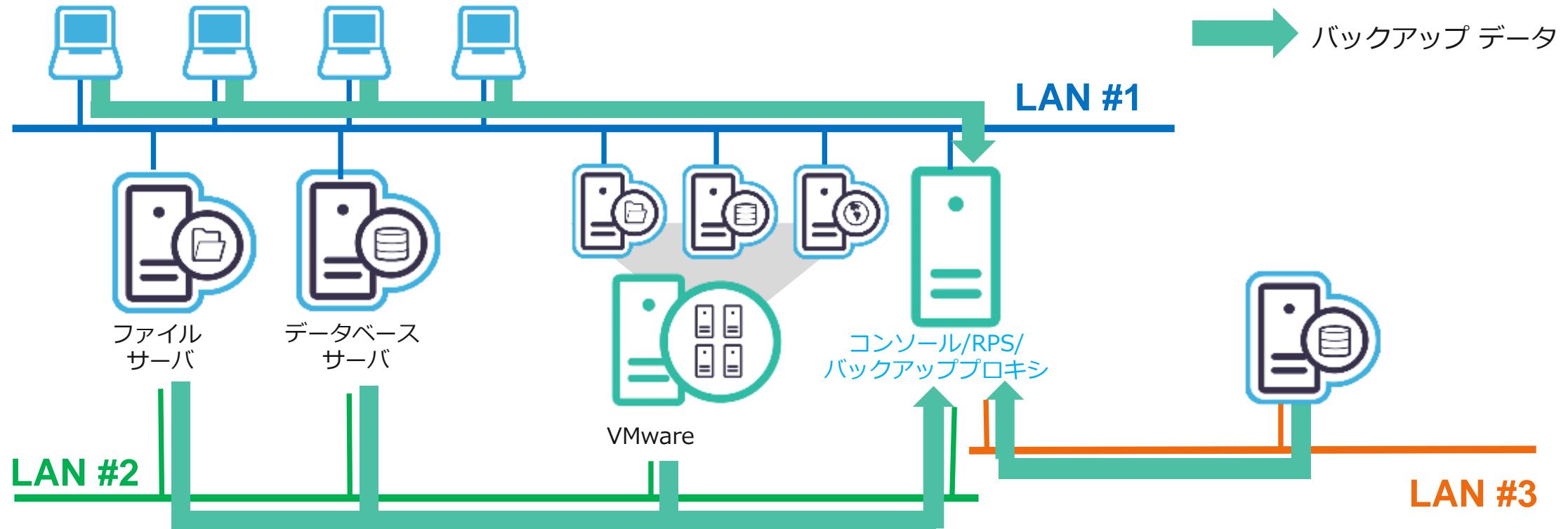
ジョブ管理ツールとの連携フロー例



バックアップ LAN 指定

Update1
拡張機能

バックアッププラン[※]で **バックアップLANの指定**が可能

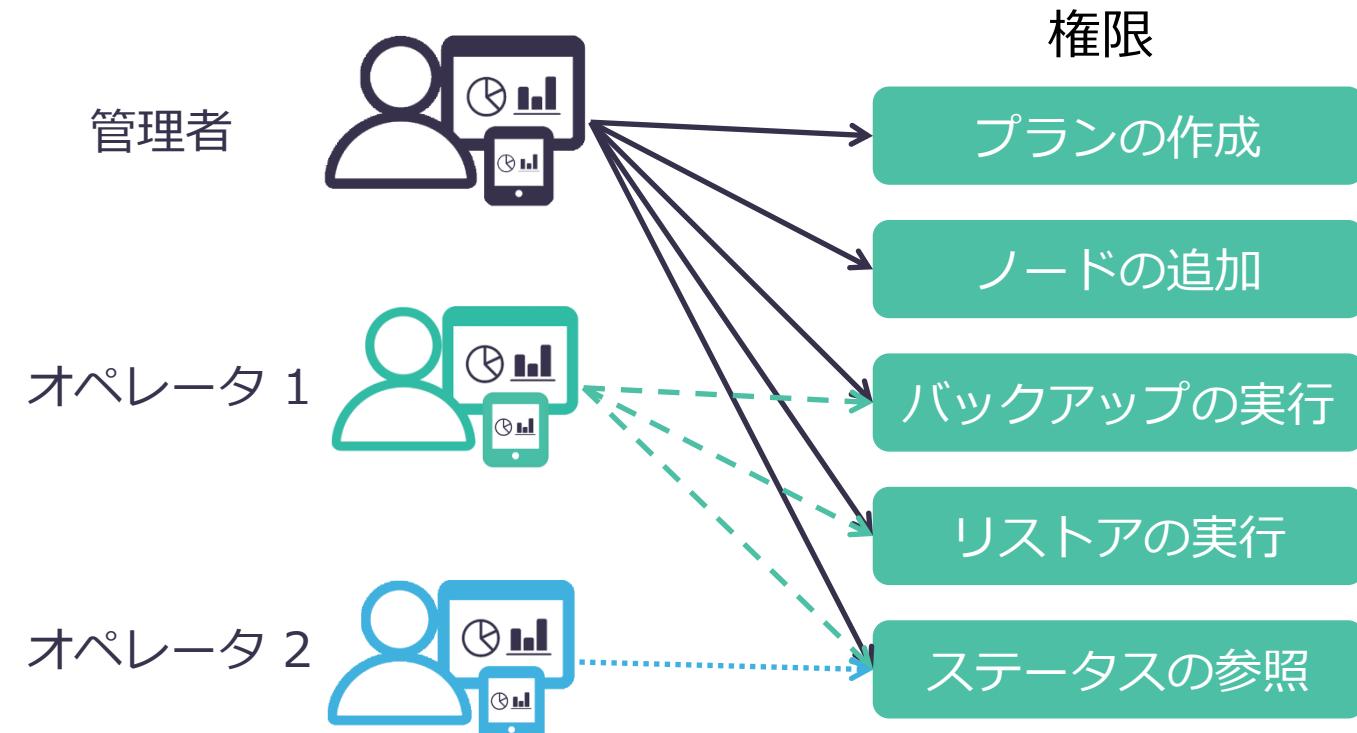
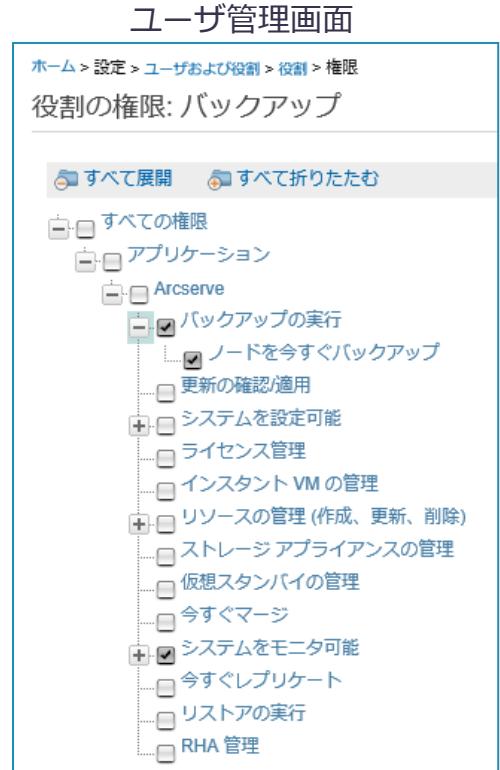


※ UDPコンソールを使用

ユーザ管理による権限の割り当て

こんな時に
便利！

- 管理者以外にはバックアップ設定を変更させたくない
- オペレータにはステータス参照だけを許可したい

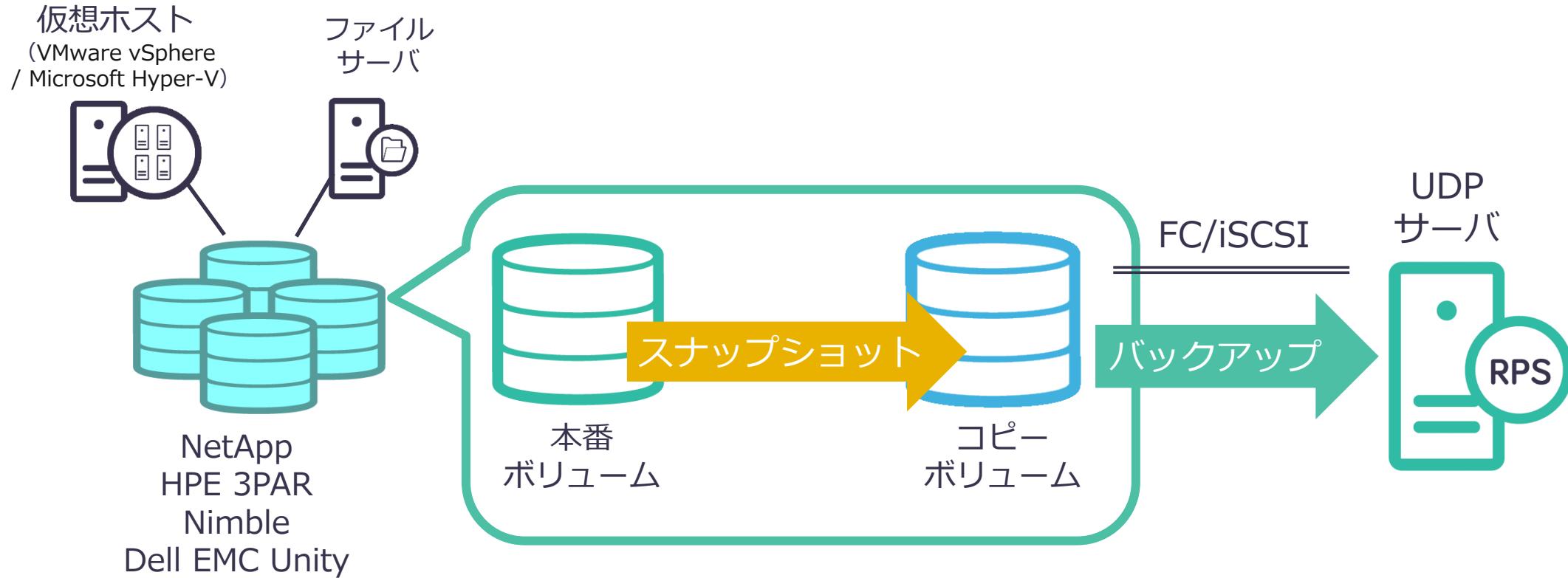


ユーザごとに操作権限を設定してセキュリティを強化

大容量データの高速バックアップ

Premium /
Premium Plusここが
ポイント！

- ハードウェアスナップショットと連携した高速バックアップを実現
- VM 領域やファイルサーバ領域のLANフリーバックアップが可能



仮想化統合基盤の保護をさらに強化



Arcserve Backup の機能を利用し、仮想化統合基盤の細かな要件にも対応

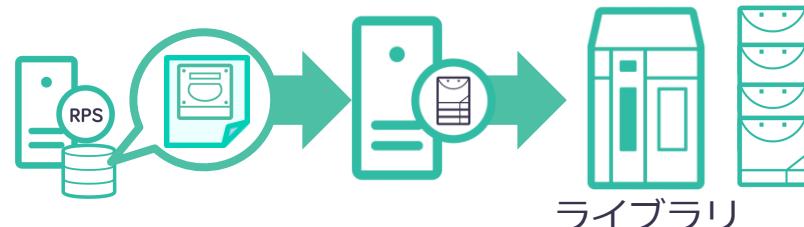
ファイル/フォルダ単位の バックアップ

特定のファイルやフォルダのみを指定して
バックアップ



テープ ライブラリのサポート

複数のドライブが搭載されたテープライブ
ラリの利用をサポート



Unix サーバのバックアップ

仮想環境に統合できないUnixサーバも
まとめてバックアップ



Arcserve Backupのその他機能

Arcserve Backupのエージェント/オプション機能をすべて利用可能※



Enterprise
Module



SAN
Option



Agent for
Lotus
Domino

etc

※日本でサポートされているエージェント・機能のみ



その他の機能

停止中の仮想マシンのバックアップおよびファイル単位のリストア

- Windows 仮想マシンが停止中に取得したバックアップデータからファイル単位のリストアが可能
- VMware vSphere および Microsoft Hyper-V 環境で利用可能

Microsoft Hyper-V クラスタ環境のサポート

- Microsoft Hyper-V クラスタ上の仮想マシンをエージェントレスでバックアップ
- ライブマイグレーションで移動した仮想マシンのバックアップも対応

仮想マシンの自動検出 + 自動バックアップ

- VMware vSphere や Microsoft Hyper-V の仮想マシンを定期的に自動検出し、管理者にメールで通知
- VMware / Hyper-V 環境の新規仮想マシンを自動的に登録してプランに追加できるため、新規ノード追加時の漏れが無いバックアップと、運用の効率化が可能

様々なVMware vSphere 環境のサポート

VMware vSphere vMotion、HA、vSANや vNetwork Distributed Switch (vDS)が利用されている環境のバックアップおよびリストアをサポート



Arcserve UDPのフォーカスエリア





災害対策を適切なコストで実現

災害対策ソリューションに求められる多くの機能を盛り込みました

バックアップデータの重複排除

エージェントで重複排除を実行！複数サーバ間の重複排除も行い、少ない容量で多くの世代を残せる



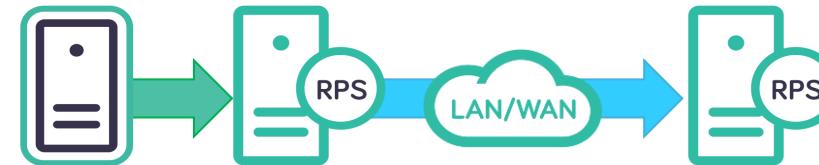
仮想スタンバイサーバの自動作成

バックアップデータを元に仮想マシン作成
障害時に代替え機として利用
遠隔地で利用し事業継続が可能



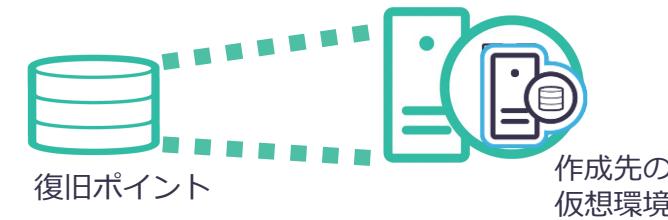
バックアップデータのレプリケート

標準機能でバックアップデータの転送機能を搭載！遠隔地への保管に最適



インスタント VM

バックアップデータから直接起動の仮想マシンを本番サーバの替わりとして利用可能

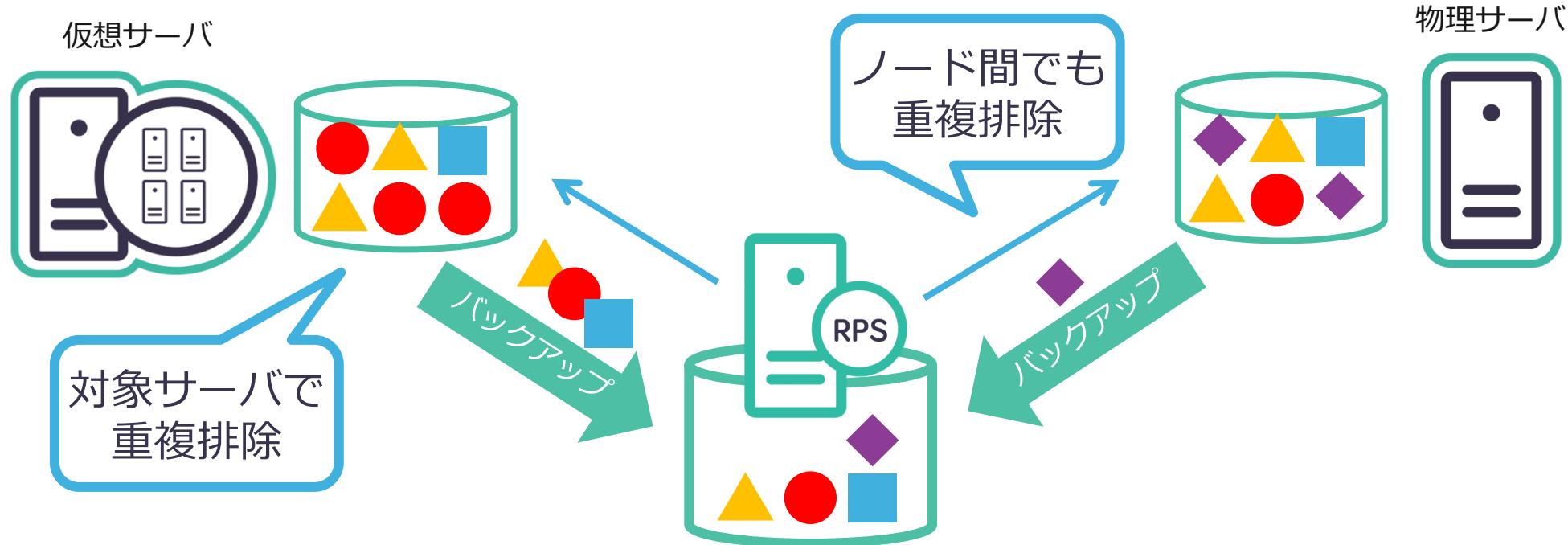




重複排除によるバックアップデータの大幅削減

こんな時に
便利！

- バックアップデータ容量を少なく保存したい
- ネットワークに流れるデータ量を少なくしたい



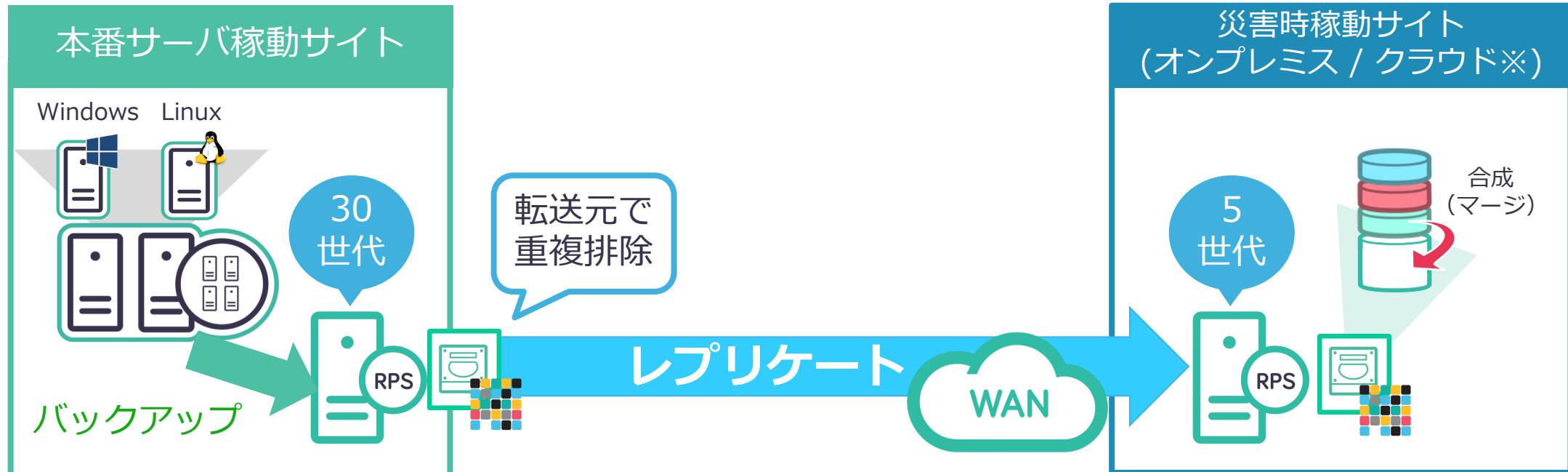
ブロック増分バックアップ+重複排除を利用して
更に少ない容量で多くの世代を保管できる



バックアップデータの遠隔地への転送

こんな時に
便利！

- バックアップデータを遠隔地に保管しておきたい
- WANに流れるデータは**更に**少なくしたい



重複排除で回線
使用量を更に削減

特定の曜日・時間を指定
して転送できる

転送先での世代数を
個別に設定できる

※ レプリケート先には復旧ポイントサーバ (RPS) が必要です。Arcserve UDP Cloud Hybrid には RPS がインストールされており、レプリケート先として利用することができます。

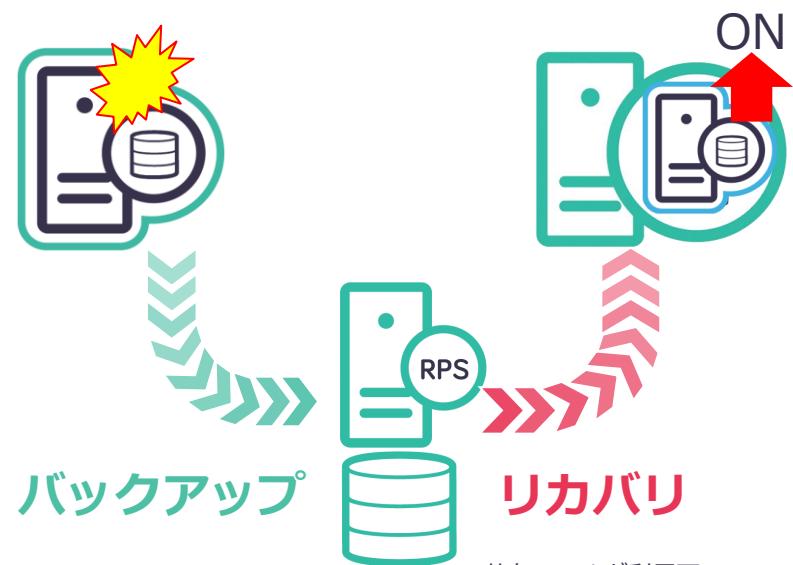


仮想スタンバイサーバによる業務継続

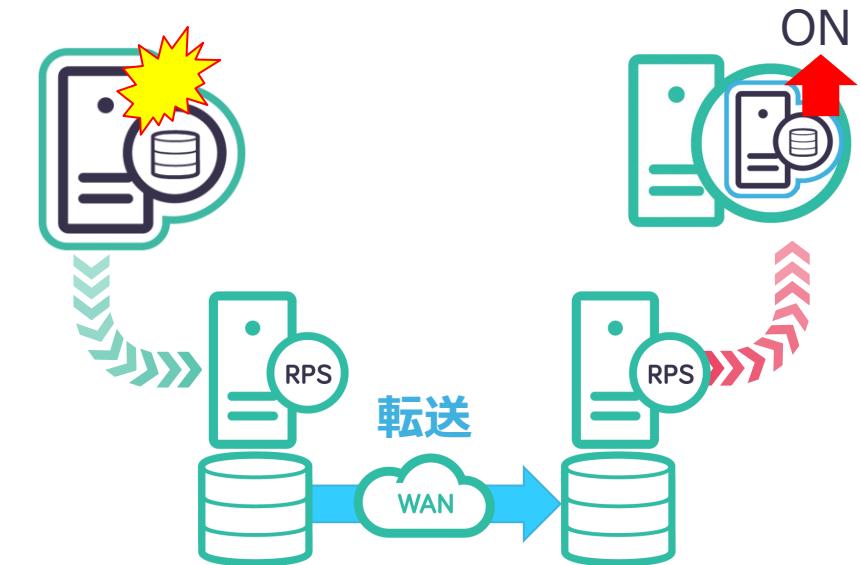
こんな時に
便利！

- 障害時にリストア作業せず、より早く環境を利用したい
- 災害時には遠隔地またはクラウドでサーバを即継続利用したい

同一サイト内での利用



遠隔地 / クラウド(※)での利用



復旧済みの仮想マシンで
素早く業務を再開

ローカル / 遠隔地でも構成
できる

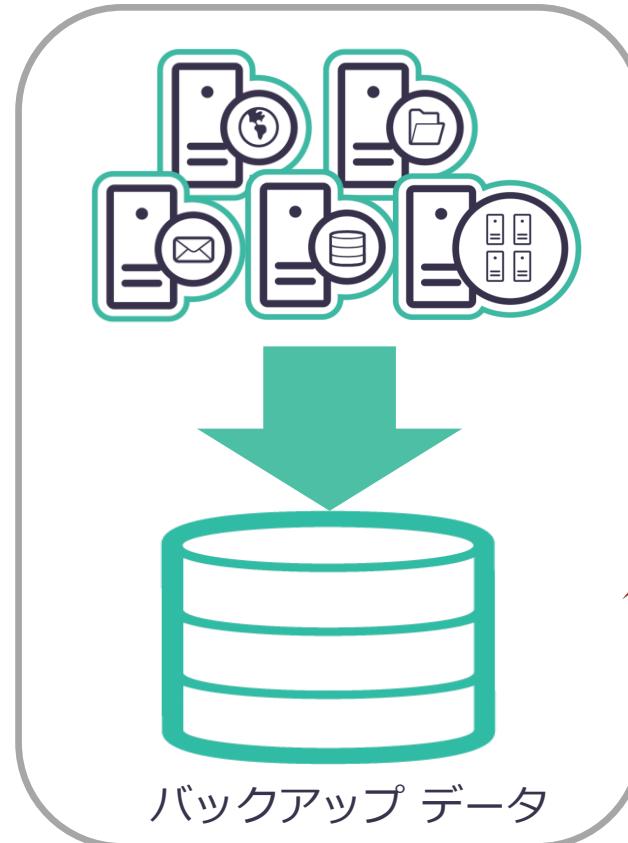
複数のスナップショット
から適切な時点に戻せる



インスタント VM で本番サーバの替わりを即利用

こんな時に
便利！

- 予算が無く、代替え環境を予め用意していない場合でも
直ぐに業務を再開したい
- ウィルスなどの被害時に**本番サーバの替わり**を用意したい



4ステップで作成し、
僅か10分ほどで起動

インスタントVM



復旧先の仮想環境
(vSphere / Hyper-V / AHV
/ AWS EC2 / MS Azure) *

バックアップデータから
直接サーバ起動

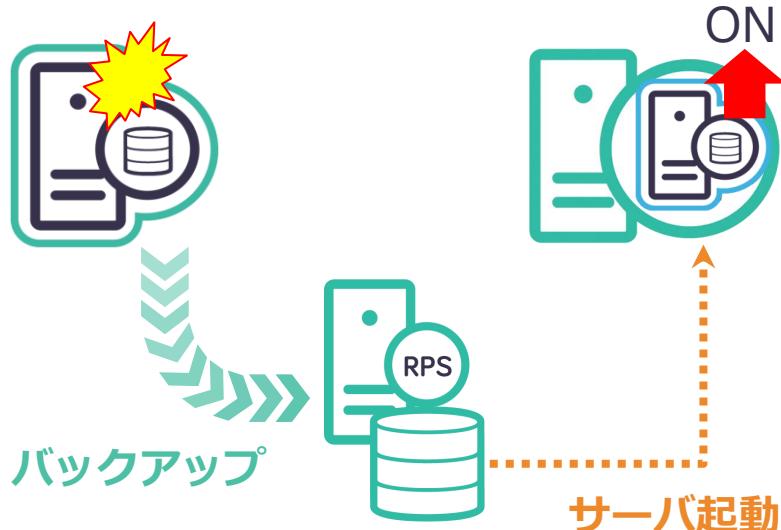
※WindowsのIVMは vSphere, Hyper-V, Arcserve UDP Cloud Hybrid 環境のみ



インスタント VMと仮想スタンバイとの違い



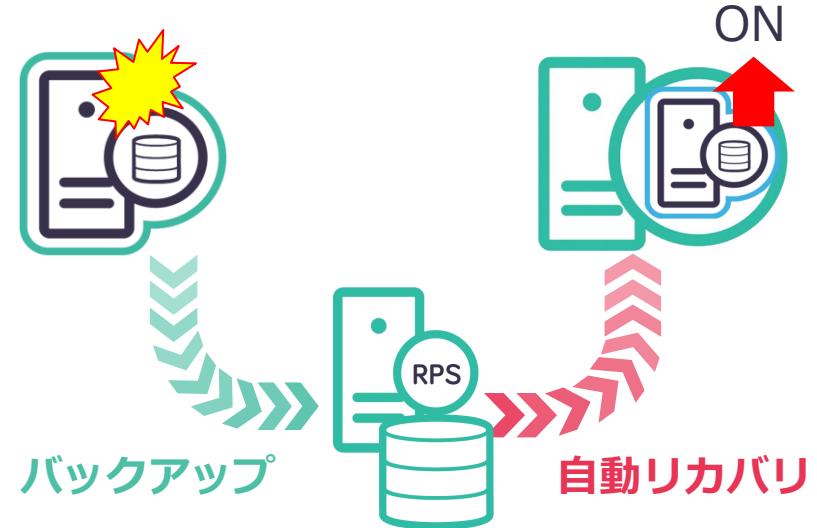
インスタント VM



※WindowsのIVMはvSphere, Hyper-V, Arcserve UDP Cloud Hybrid環境のみ

- バックアップデータを参照し、VMを起動
- 事前準備が不要
- 予算が少ないシステムに有効
- Windows & Linux をサポート
- ランサムウェア対策にお勧め

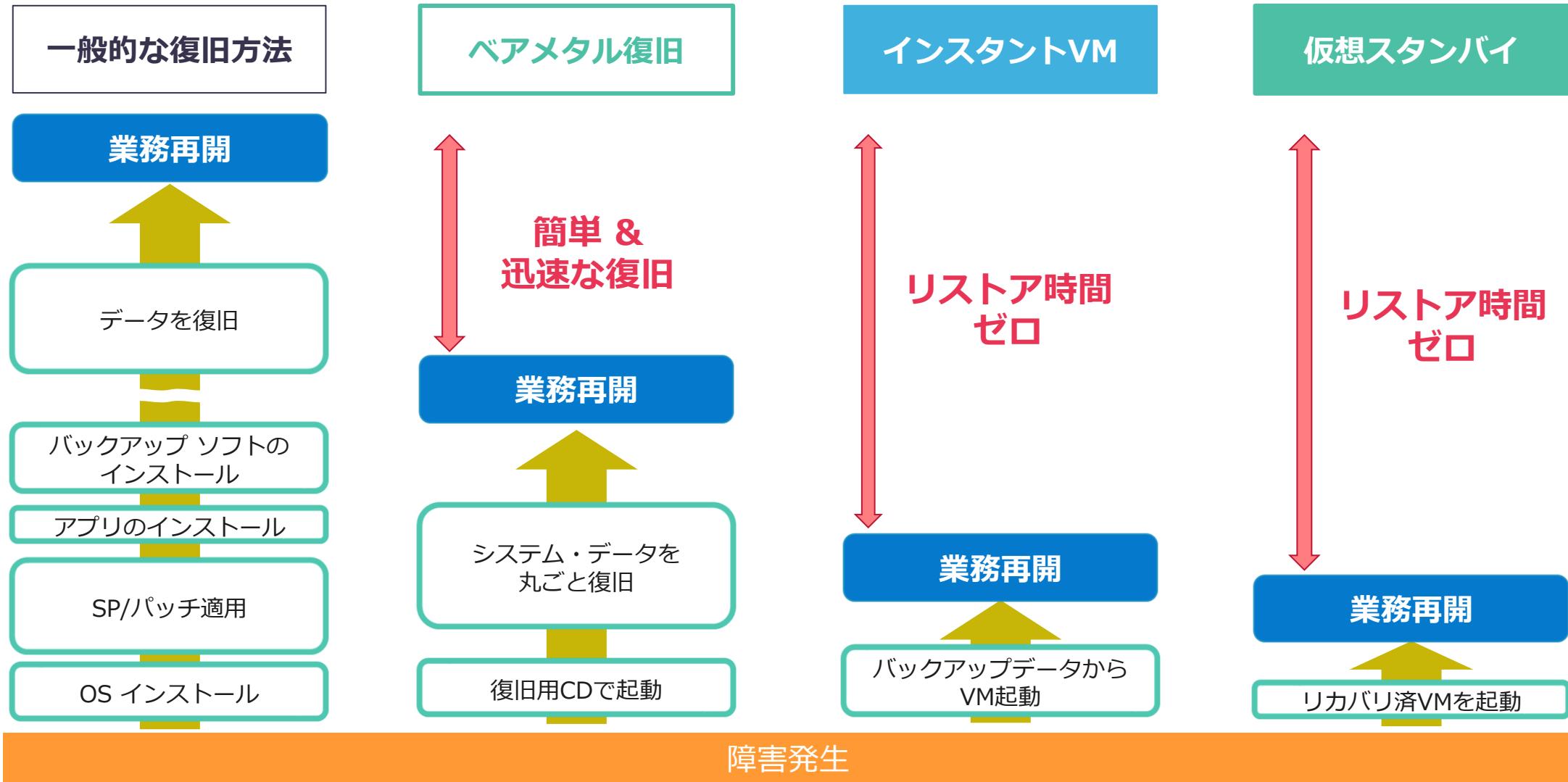
仮想スタンバイ



- バックアップ時にリカバリまで実行済
- スタンバイVM分のディスクが必要
- リカバリ済のVMを起動
- Windows をサポート



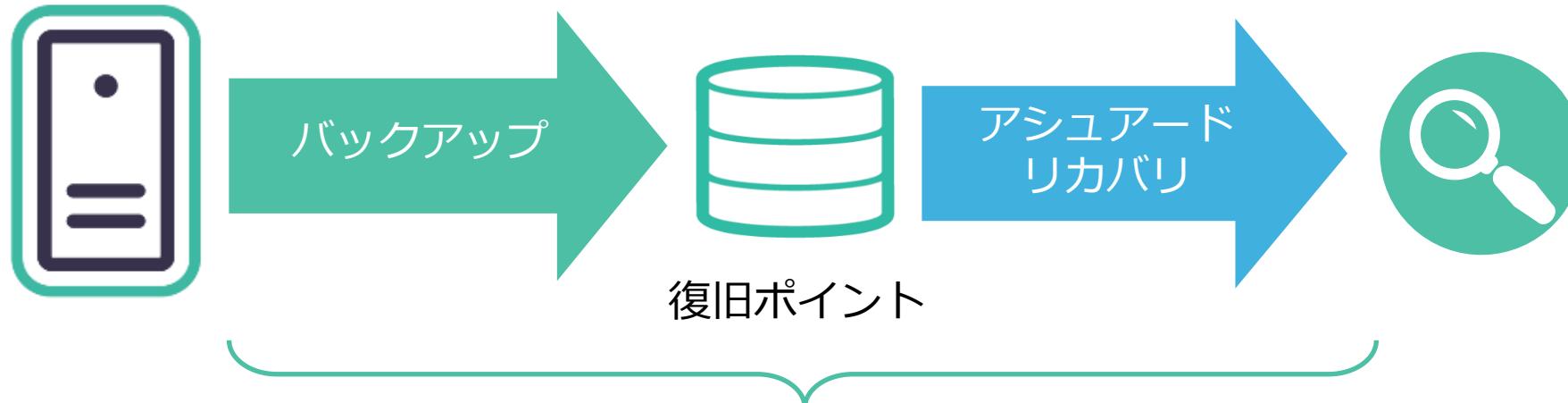
<参考> 業務再開までの時間で比較



アシュアード リカバリ

Premium /
Premium Plus

バックアップ データ (復旧ポイント) が
リストア可能な状態であることを自動確認



バックアップから確認処理の後始末までを全自動化

Windows/Linux/仮想の
バックアップとレプリケート
後のデータを確認

確認結果を
メールで通知

手動、もしくは曜日・時間
を指定して実行

復旧ポイントに対する確認方法

Premium /
Premium Plus



インスタントVMを利用して、 システムの正常起動を確認

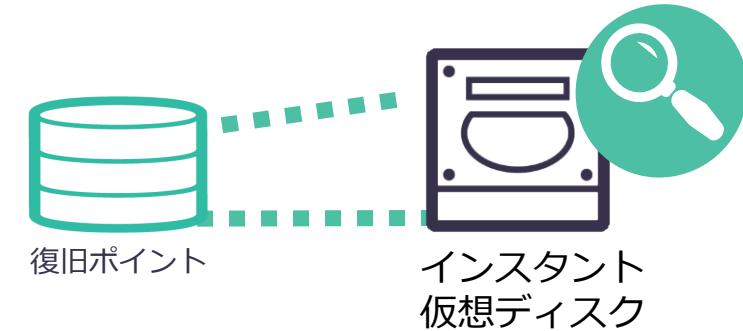


[確認のポイント]

- ・システムが起動可能か?
- ・サービス実行が可能か?
- ・アプリケーション サービスの整合性は取れているか?(カスタムスクリプトを利用)

仮想ディスクを参照して、 データの状態を確認 *

* バックアップ対象がWindows OSのみ



[確認のポイント]

- ・ファイルシステムの整合性が取れているか?
- ・ディスクに破損はないか?
✓ chkdsk による確認も可能
- ・特定ファイルの読み出しが可能か?
(カスタムスクリプトを利用)

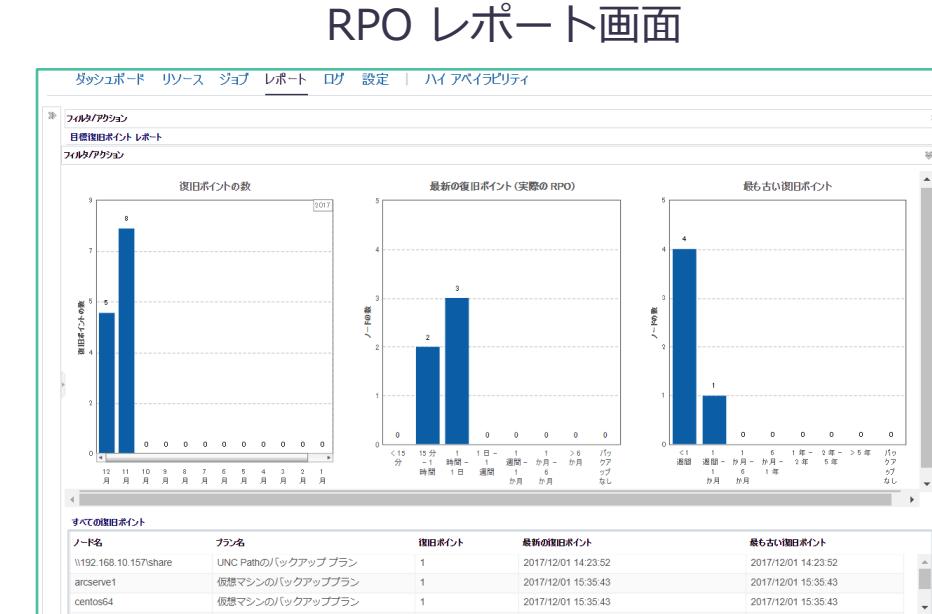
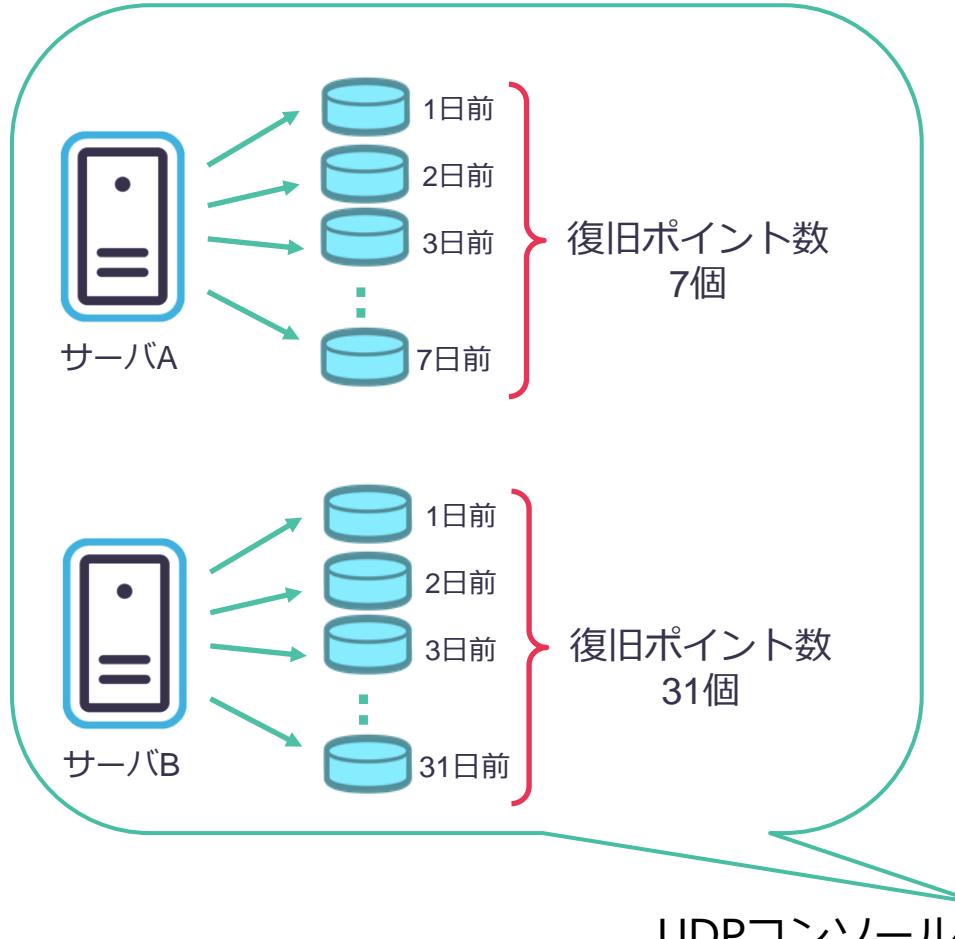
確認用ディスク スペース不要、短時間で自動確認！！

RPO の可視化 (SLA レポート)

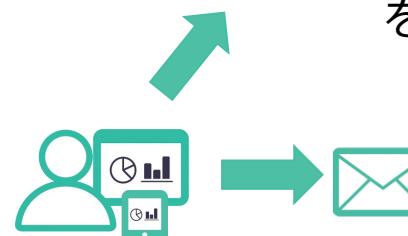
Premium /
Premium Plus



サーバ毎にどの時点まで戻せるかを可視化



一定期間内の復旧ポイント数
を各ノード毎に表示



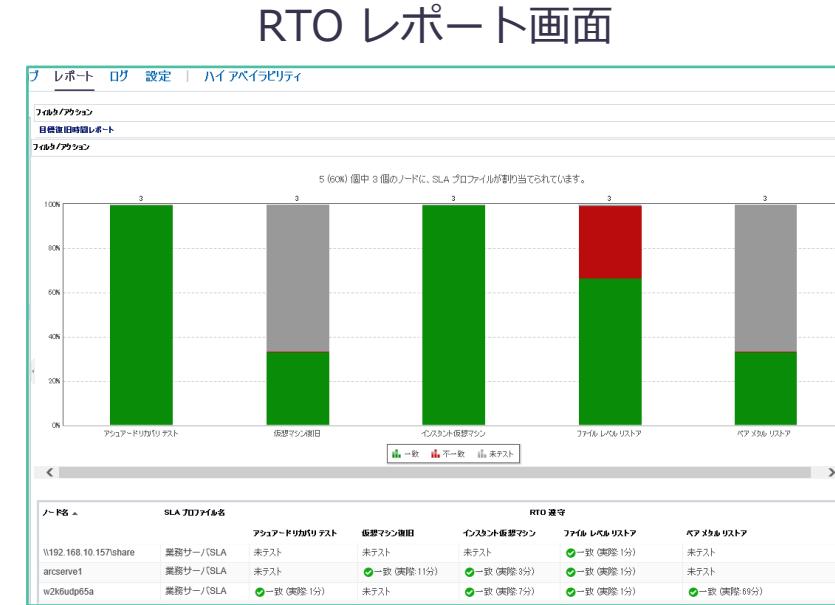
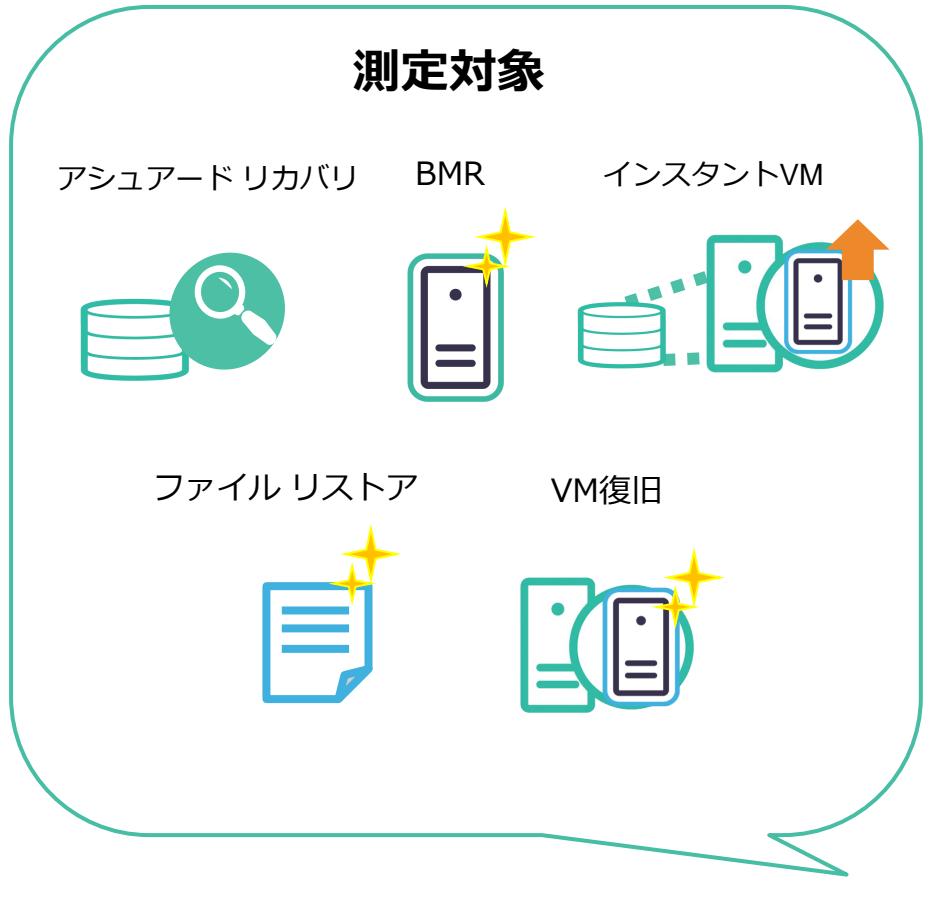
自動作成したレポート
をメールで転送可

RTO の可視化 (SLA レポート)

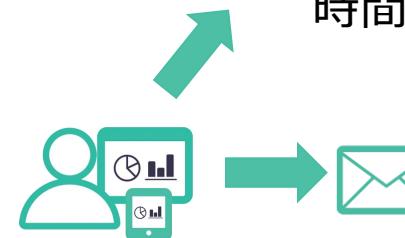
Premium /
Premium Plus



設定した目標復旧時間内に復旧できるかを可視化



実際の復旧時間と、目標の復旧時間とを比較した結果を色分け表示



自動作成したレポートをメールで転送可

災害対策をさらに強化

Arcserve Replication/HA の機能を利用し、より細かな災害対策要件にも対応

ファイル単位のレプリケーション

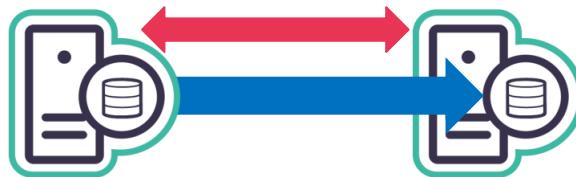
ファイルサーバのリアルタイム レプリケーションにより、鮮度の高いデータを遠隔保護



P

アプリケーションの可用性向上

MS SQL ServerやOracleデータベースなど
アプリケーションのデータを複製、スイッチ
オーバーまでサポート



P+

Hyper-V仮想マシンの災害対策

Hyper-Vシナリオによる仮想マシンのレプリケーションおよびスイッチオーバーを
サポート



P+

Arcserve RHA その他機能

Arcserve Replication/HAのシナリオおよび
機能をすべて利用可能※



etc

P+

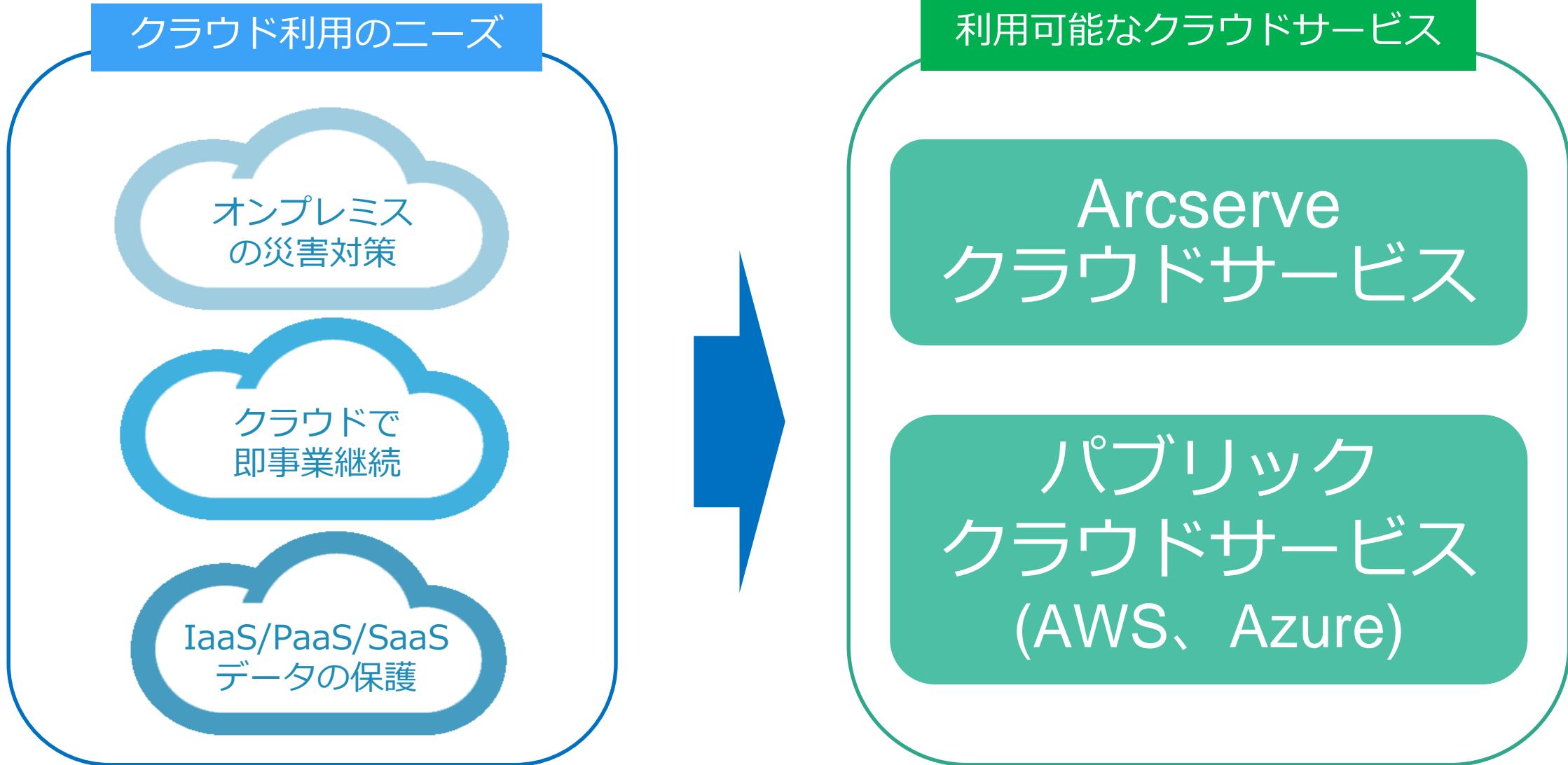
※日本でサポートされているシナリオ・機能のみ



2. 様々なクラウド利用のニーズへの対応

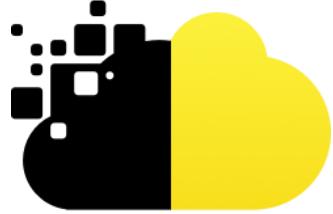


様々なクラウド利用のニーズへの対応

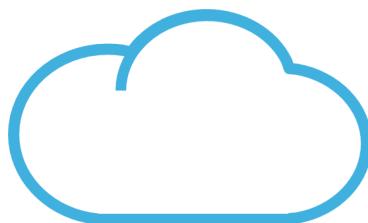




利用可能なクラウドサービス①



Arcserve クラウドサービス



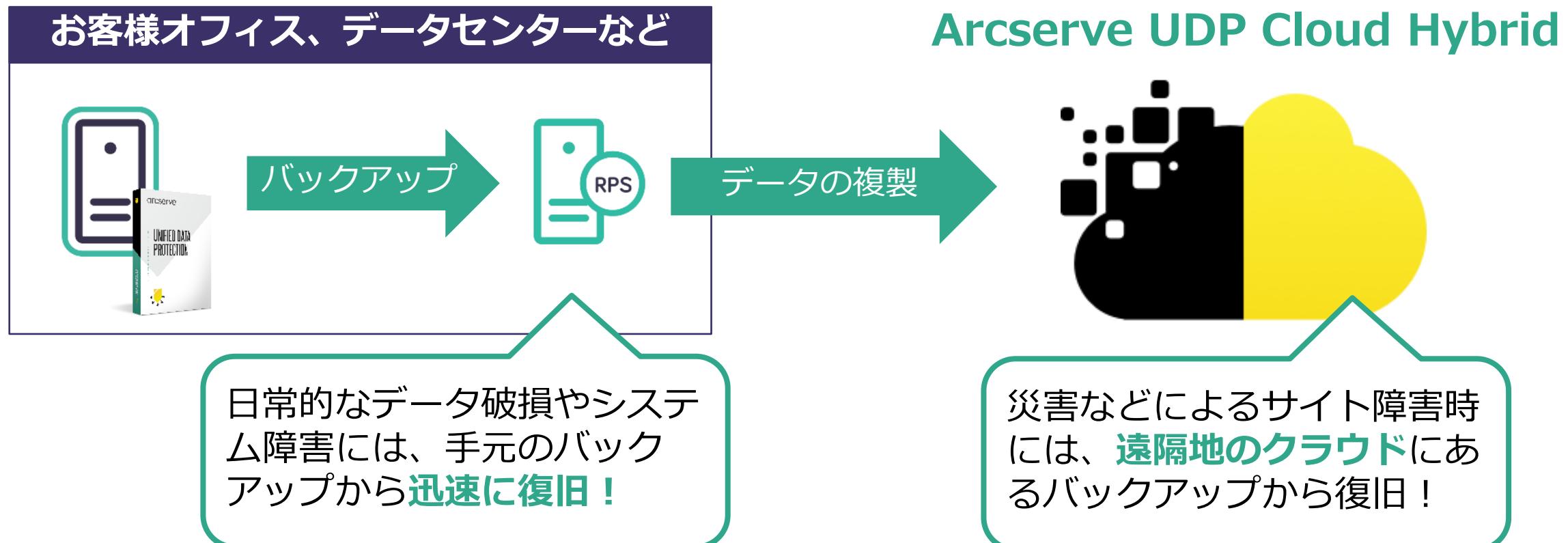
パブリック クラウドサービス



Arcserve クラウドサービス ～ Arcserve UDP Cloud Hybrid とは～



Arcserve UDP / Arcserve UDP Appliance が持つ復旧ポイントサーバ (RPS) 間のレプリケート (複製) 機能を活用し、オンプレミスでの利便性の高いバックアップと、災害に備えた遠隔バックアップの「ハイブリッド」を実現するサービスです。



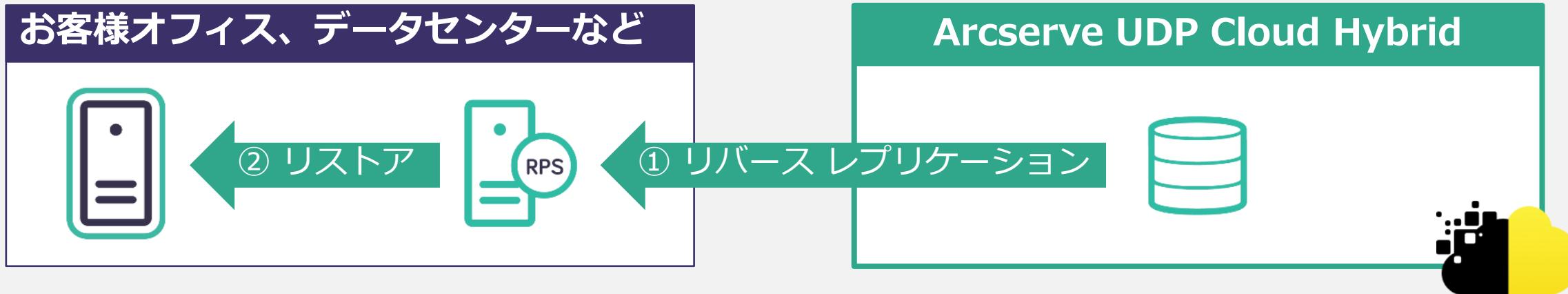


Arcserve UDP Cloud Hybrid の利用シーン1



～ 災害によるサイト障害からシステムを復旧

オンプレミスのバックアップ データが災害などで失われた場合には、クラウドから RPS ヘリバース レプリケーションし (①) 、そのバックアップ データからシステムをリストアします (②) 。



※ ファイル/フォルダ の直接リストアも可能です。ただし、Linux の場合 Compute リソースの購入が必要です。

※ リバースレプリケーションを安定して行うには、お客様サイトで固定のグローバル IP アドレスを契約されることをお勧めします。

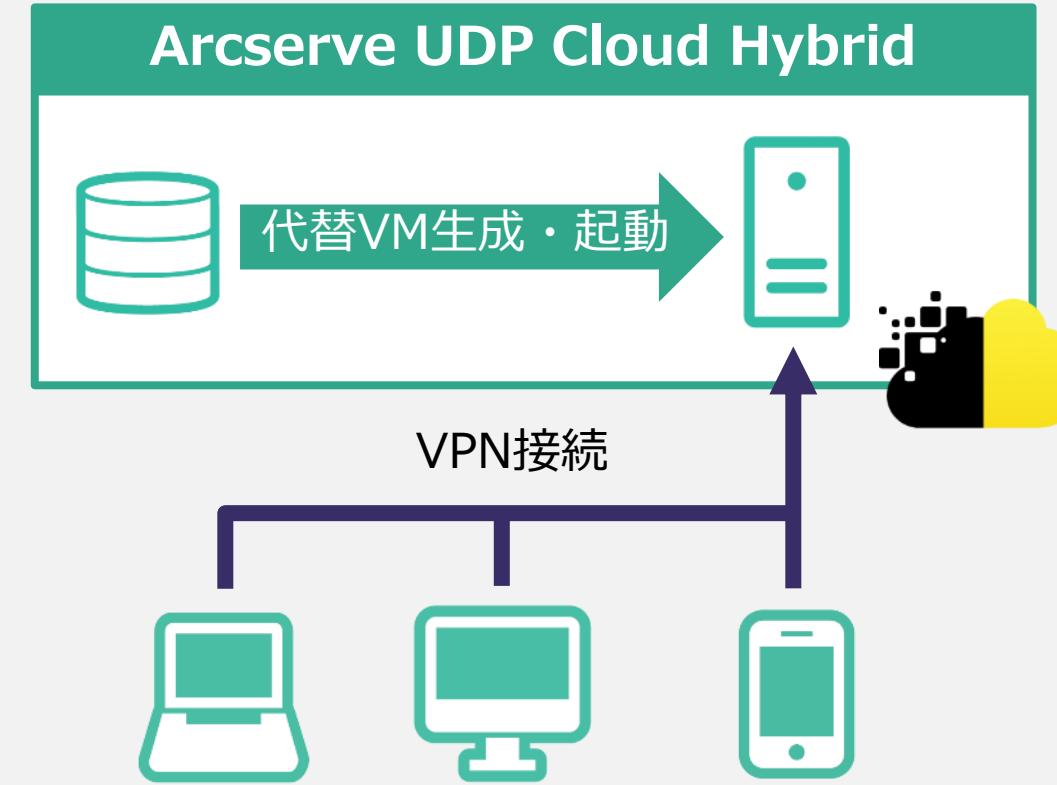


Arcserve UDP Cloud Hybrid の利用シーン2



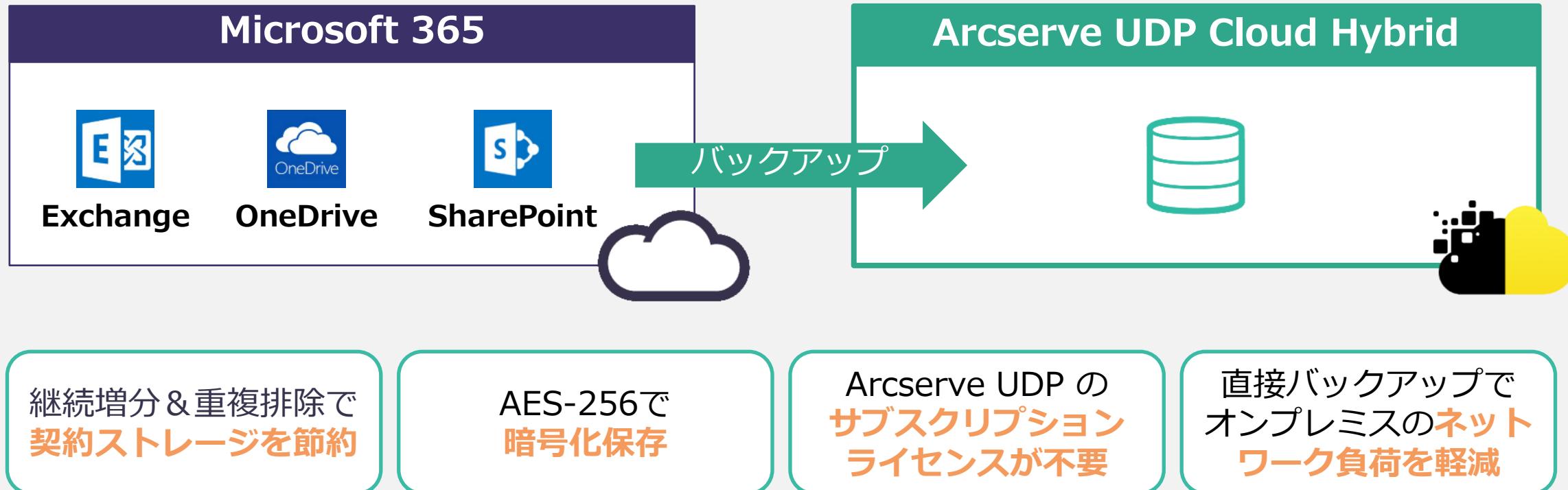
～ 災害時にクラウド上でシステムを継続利用

本番システムの障害時には、インスタントVMまたは仮想スタンバイ機能で、本番システムの代替仮想マシン（VM）を起動。VPN経由で代替VMにアクセスし業務を継続できます。



Arcserve UDP Cloud Hybrid の利用シーン3 ～ Microsoft 365 のデータを直接クラウドへバックアップ

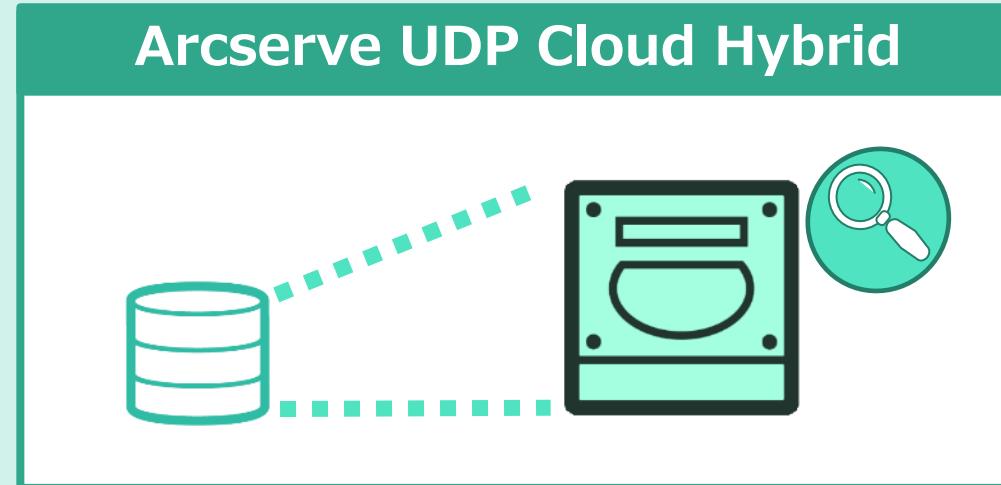
Microsoft 365 に限り Arcserve UDP Cloud Hybrid に直接バックアップできます。
しかも Arcserve UDP のサブスクリプションは不要！
退職者アカウントなどの保存期間を過ぎたファイル/メールを復旧できます。





Arcserve UDP Cloud Hybrid で使えるアシュアード リカバリ機能 ～レプリケートされたデータがリストア可能か自動でチェック～

Windows/Microsoft365 のバックアップデータは**インスタント仮想ディスク方式**※1で状態確認

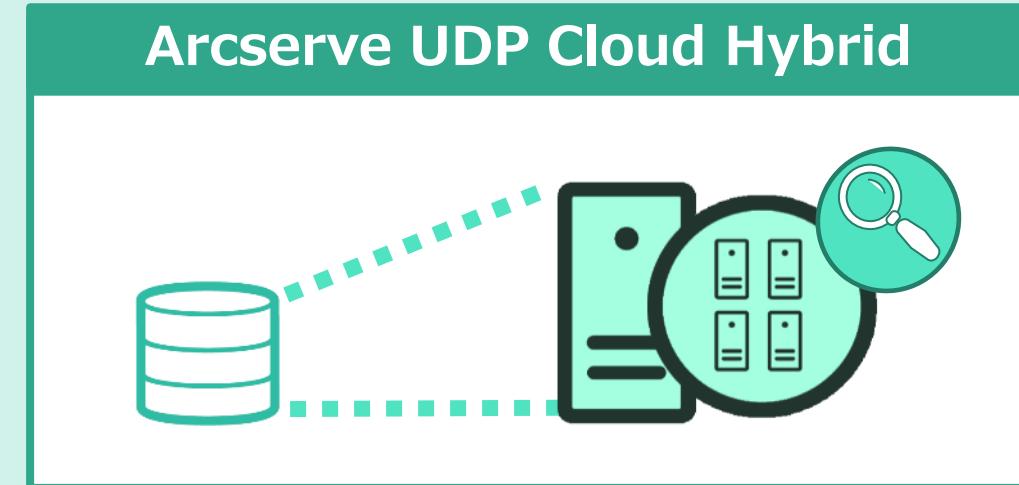


スケジュールを指定
して自動実行

確認結果を管理者へ
メールで通知

Arcserve UDPの
ライセンスは
Advanced で OK !

Windows/Linux のバックアップデータは
インスタントVM方式※2で起動確認



※1 CHKDSK でファイルシステムの整合性を確認できます。

※2 Compute リソースの購入が必要です。



2つのコスト メリットで “はじめやすい”

導入
コスト



ランニング
コスト



クラウド インスタンスの構築/設定作業は一切不要

- ◆サービス契約後、クラウドを利用したバックアップ/アーカイブ運用を すぐに開始できる状態でクラウド アカウントをご提供します
- ◆インスタンス構築に関連する面倒な設定作業は一切不要。
ネットワークやセキュリティも設定済なので、すぐに運用が始められます



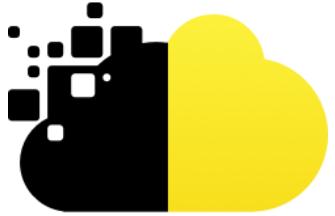
ご契約いただいたストレージ範囲内なら台数無制限で保護

- ◆転送量に対する課金がなく、ストレージ課金も年契約で固定なのでコスト見積もりも容易。契約期間中でも容量増加の追加契約ができるので契約時の容量が不足して運用を止める心配がありません
- ◆ストレージやインスタンスのメンテナンスは、全てArcserveにお任せ、メンテナンス作業は一切不要です

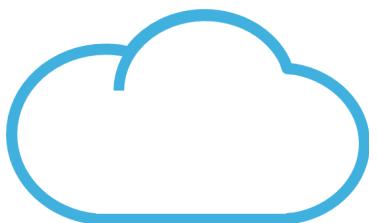




クラウド対応



Arcserve クラウドサービス



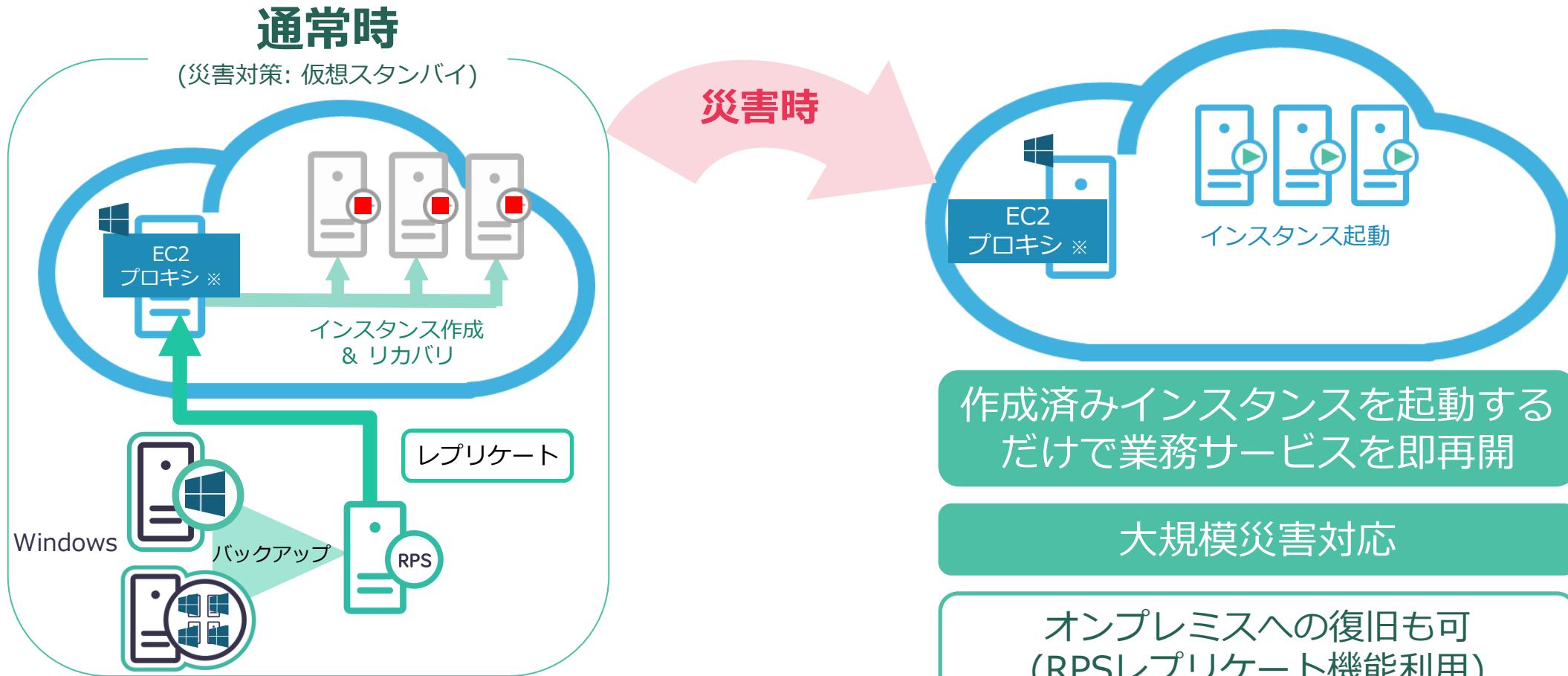
パブリック クラウドサービス



Amazon EC2 および Microsoft Azure を利用した Windows 環境の事業継続



リストア時間 “ゼロ” でクラウドに即事業継続

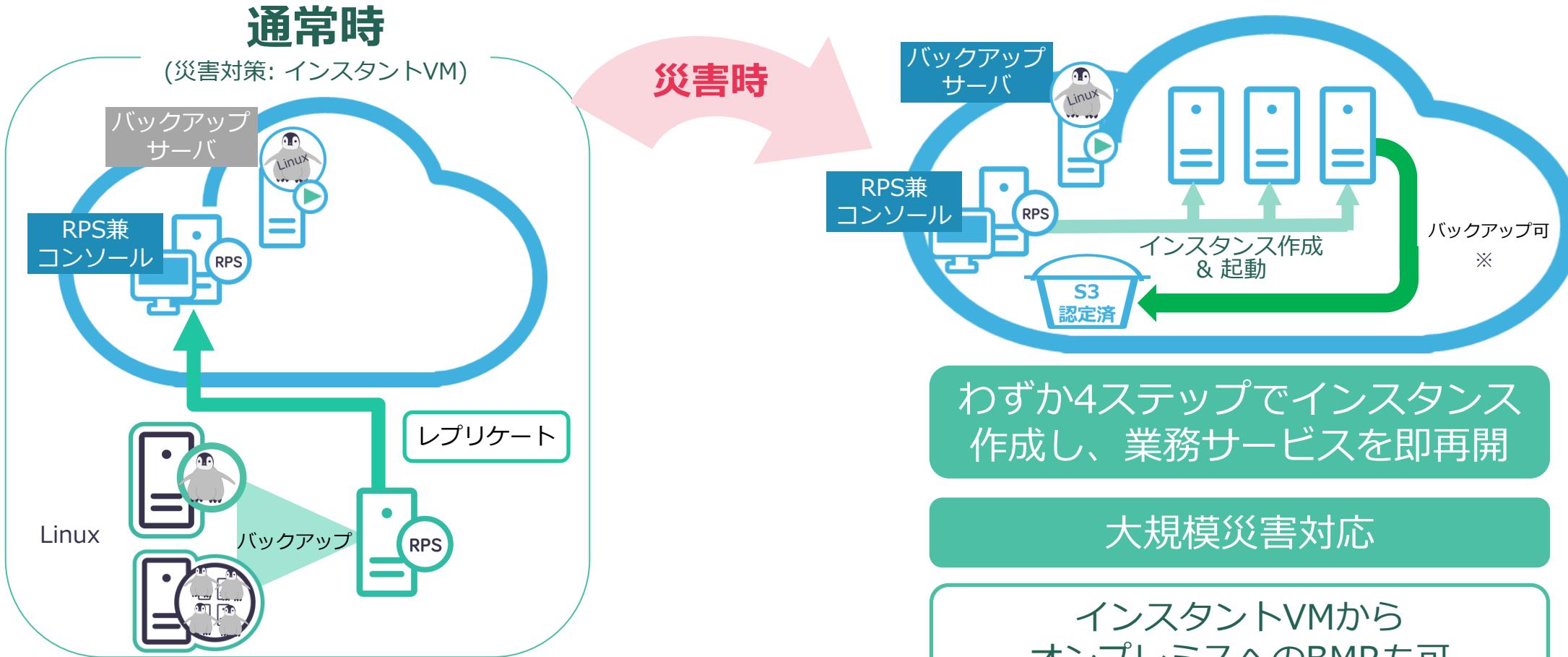




Amazon EC2 および Microsoft Azure を利用した Linux 環境の事業継続



リストア時間 “ゼロ” でクラウドに即事業継続





Microsoft 365 のバックアップ



増分&重複排除でクラウドストレージのランニングコストを削減



Exchange Online のアイテム保持期間

- 完全削除アイテム保持期間 => 14日
- 削除済みメールボックス保持期間 => 30日

SharePoint Online のテナント容量

- 初期容量 1TB + 10GB × ユーザ数
- 削除済みアイテムの保持期間 => 93日

OneDrive のストレージ容量

- 初期容量 1TB × ユーザ数
- 削除済みアイテムの保持期間 => 93日

Arcserve UDP



サブスクリプションで更にお得に！

1ライセンスでメール、SharePointに加え **OneDrive** もバックアップ

アイテム単位でリストア



メールボックス



メール



予定表



連絡先



タスク



メモ



パブリック
フォルダ



SharePoint ドキュメント



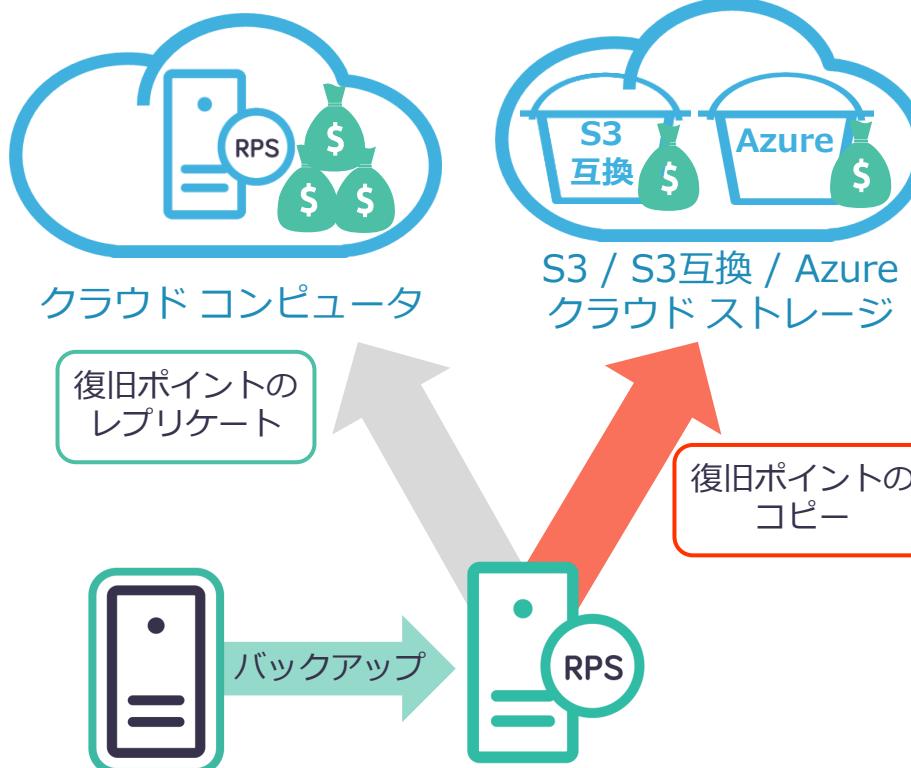
OneDrive
個人データ





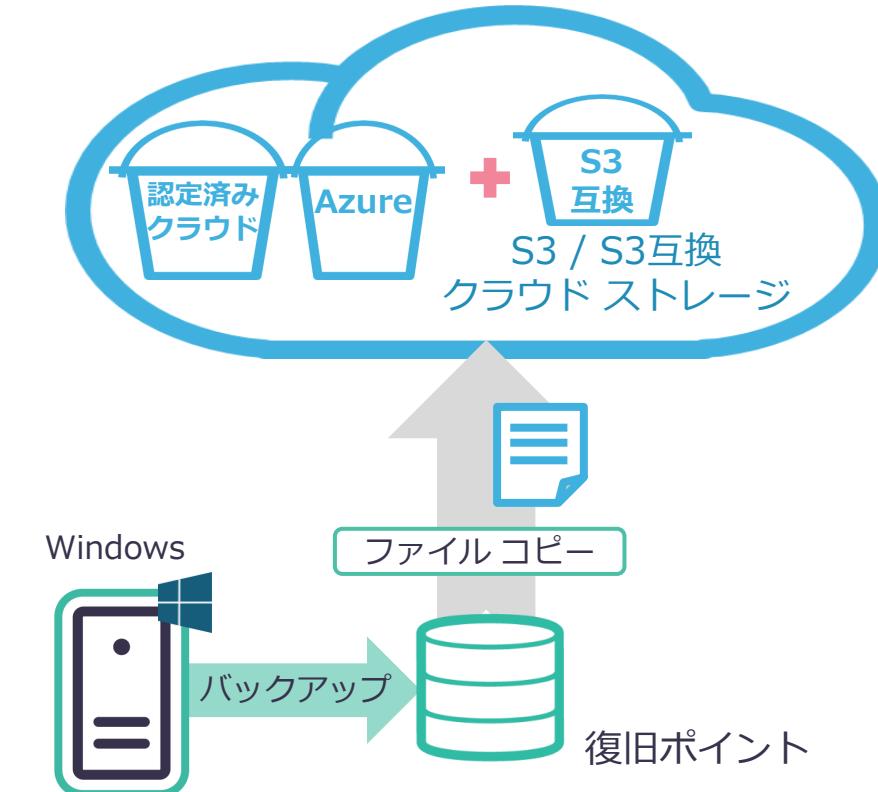
クラウド ストレージ利用の拡張

バックアップ データのクラウド保管



クラウド ストレージでコストを削減

重要ファイルをクラウド保管



クラウド ストレージを自由に選択



Amazon S3 / S3 互換への直接バックアップ

手軽なクラウドストレージを利用して Linux 環境の災害対策を実現



オンプレミスの
ディスク削減

Windows サーバ(RPS)不要

オンプレミスへのBMRも可

※ クラウドストレージからのファイル単位リストア可



様々なクラウド利用のソリューションを提供

オンプレミスの災害対策

オフサイト保管:

- UDP Cloud Hybrid / EC2 / Azure への RPS間レプリケート

- 復旧ポイント(バックアップデータ)のコピー

- ファイル コピー

ダイレクト バックアップ:

- Linux サーバを S3 に直接バックアップおよびオンプレミスへの BMR

クラウドで即事業継続

バックアップデータを用いた事業継続:

- UDP Cloud Hybrid への仮想スタンバイ、インスタントVM

- AWS EC2 / Azure への仮想スタンバイ、インスタントVM

IaaS/PaaS/SaaS データの保護

IaaS/PaaS:

- クラウド コンピュータのバックアップ

- EC2インスタンスからオンプレミスへのBMR

- EC2 / Azure のLinuxインスタンスのバックアップおよびBMR

SaaS:

- Microsoft 365 バックアップ (Exchange / SharePoint / OneDrive)



3.ライセンス

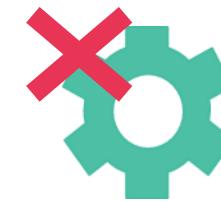


ライセンスの課金対象

ライセンスは「**バックアップ対象**」にのみ必要です。

バックアップ対象ノード数またはバックアップ対象サーバのソケット数のライセンスが必要です。

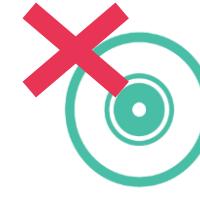
コンソールおよび 復旧ポイントサーバ (RPS : バックアップ保存先サーバ) にライセンスは不要です。



特定のオプション



管理コンポーネント

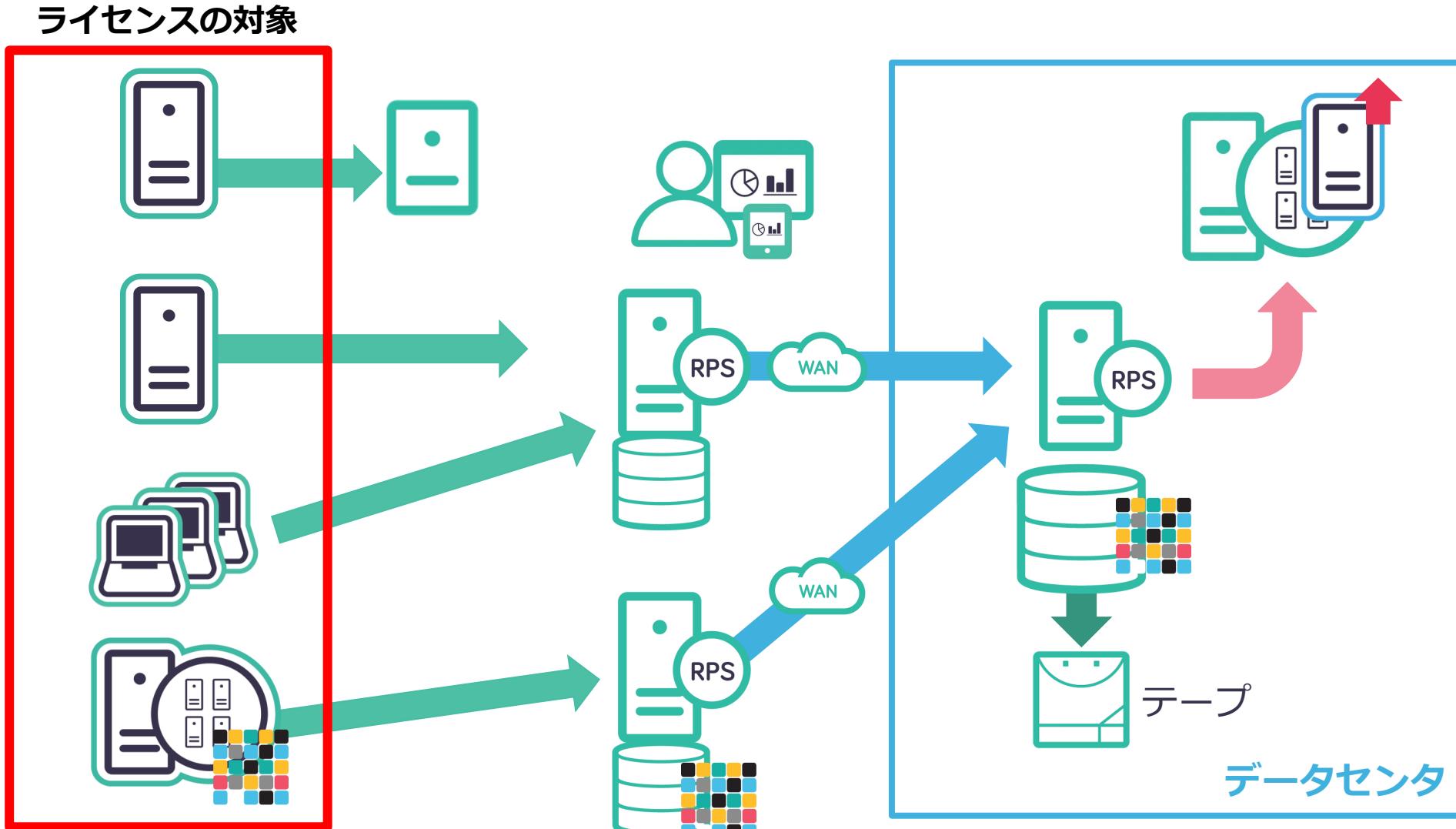


インストールメディア

※Arcserve Replication/High Availability 機能を利用する場合、ライセンスは複製元と複製先サーバ (物理/仮想ホスト)の両方にライセンスが必要です。



機能を追加してもライセンスは変わりません！





Editionの種類 と 含まれる機能

| バックアップ要件 | Edition | サーバ用 | | | クライアント用 | 利用コンポーネント |
|--|---------|--------------------|---------|--------------|---------|-------------------------|
| | | Advanced / for AHV | Premium | Premium Plus | | |
| イメージバックアップ/共有フォルダ(CIFS/NFS)のバックアップ | | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | |
| 重複排除 | | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | |
| 統合管理 | | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | |
| バックアップデータの遠隔転送 | | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | |
| 仮想マシンのエージェントレスバックアップ | | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | |
| 仮想スタンバイ | | ✓ | ✓ | ✓ | ✓ | |
| インストントVM | | ✓ | ✓ | ✓ | | Arcserve UDP |
| バックアップデータのテープ保管 | | ✓ | ✓ | ✓ | | |
| VSSライタを利用したオンラインバックアップ | | ✓ | ✓ | ✓ | ※2 | |
| ストレージのハードウェアスナップショット対応 (NetApp/HPE 3PAR/NIMBLE/DellEMC Unity) | | | | ✓ | ✓ | |
| アシュワードリカバリとSLAレポート | | | ✓ | ✓ | | |
| 役割ベースの管理 | | | ✓ | ✓ | | |
| Oracle RMAN 方式 / Dominoのオンラインバックアップ | | | ✓ | ✓ | | Arcserve Backup |
| Arcserve Backup 全機能 | | | ✓ | ✓ | | |
| Arcserve Replication ファイル サーバのデータ複製 | | | ✓ | ✓ | | |
| Arcserve Replication アプリケーション サーバのデータ複製 | | | | ✓ | | Arcserve Replication/HA |
| Arcserve High Availability ファイル / アプリケーション サーバの自動切替 ※1 | | | | ✓ | | |

※ 1 日本でサポートされている機能・動作要件が対象です。

※ 2 Microsoft SQL Server Express Editionのみオンラインバックアップをサポートします

※ 3 Microsoft365の保護には、別途サブスクリプション(10ユーザ1年メンテナンス含む)を提供しています。



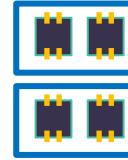
課金方法の選択



サーバ台数 課金 (per Server)

保護対象の物理サーバ台数分のライセンスを購入
(物理サーバに適用)

Advanced



CPU ソケット数 課金 (per Socket)

保護対象サーバのCPUソケット数分のライセンスを購入
(未使用ソケット分は不要)

Advanced/
Premium/Premium Plus



データ容量 課金 (per Terabyte)

保護対象サーバの総データ容量分のライセンスを購入 ^{※1}

Advanced/
Premium/Premium Plus

注：

1. Workstation Edition はクライアントPC台数の課金

2. Exchange, SharePoint および OneDrive はユーザ数での課金

※1 Microsoft 365 データの保護も可能

< Arcserve UDP の価格情報および購入方法はこちらを参照ください >

<https://www.arcserve.com/jp/jp-resources/licensing-options/>



Arcserve 無償ハンズオン セミナー & Web (動画) セミナー



Arcserve Backup

1. 入門編
2. システム復旧編



Arcserve UDP

1. 前編(Agent)
2. 後編(Server)
3. Linux Agent 編



Arcserve Replication/ High Availability

1. 前編 (Replication)
2. 後編 (HA)

お申し込みは

Arcserve セミナー

検索  まで。



お問い合わせはこちちらから



Arcserve ポータルサイト : **arcserve.com/jp**
カタログセンター (カタログ、技術資料)

<https://www.arcserve.com/jp/jp-resources/catalog-center/>

Arcserve カタログセンター



Arcserve ジャパン ダイレクト (購入前のお問い合わせ)



例 : 「この構成で必要なライセンスを教えてください」、
「Arcserve UDP はXXXに対応していますか?」、
「XXXはサポートされますか?」

フリーダイヤル : 0120-410-116

(平日 9:00~17:30 ※土曜・日曜・祝日・弊社定休日を除きます)

Webフォーム : <https://www.arcserve.com/jp/about/contact/call-me/>



arcserve®